

---

# 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

## および在宅介護実態調査

### 結果概要

---

1. 調査の概要.....	1
1) 調査の目的.....	1
2) 調査の方法・回収状況.....	1
3) 結果の概要の見方.....	2
2. 結果の概要.....	3
1) 介護予防・要介護状態になるリスクについて.....	3
2) 地域活動、社会参加などについて.....	6
3) 日常生活について.....	10
4) 在宅医療について.....	14
5) 認知症支援について.....	16
6) 在宅介護について《要介護認定者のみ》.....	23
7) 地域での生活を支える体制について.....	27
8) 市が力を入れるべき施策について.....	29
9) 第8期介護保険事業計画 成果指標の状況.....	31

# 1. 調査の概要

## 1) 調査の目的

「西宮市第10次高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」の策定に向けて、市内に在住で65歳以上の方を対象に、健康状態や生活の状況、介護保険に対する意見や要望等の把握とともに、介護保険事業計画の策定と効果評価を進めるため、以下のアンケート調査を実施しました。

## 2) 調査の方法・回収状況

### 【今回調査の概要】

調査名	介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査 (一般高齢者対象)	介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査 (要支援認定者対象)	在宅介護実態調査
調査対象	市内在住の65歳以上で 要支援・要介護認定を 受けていない人7,000人 (無作為抽出)	市内在住の65歳以上で 要支援認定を受けている人 3,000人(無作為抽出)	要介護認定を受けて在宅で 生活をしている人1,200人 (無作為抽出)
調査方法	郵送による配布・回収		
調査期間	令和5年1月20日～2月10日		
回収数 (有効回収数)	4,275部 (4,224部)	1,915部 (1,884部)	674部 (605部)
回収率 (有効回収率)	61.1% (60.3%)	63.8% (62.8%)	56.2% (50.4%)

### 【前回調査の概要】

調査名	介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査 (一般高齢者対象)	介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査 (要支援認定者対象)	在宅介護実態調査
調査対象	市内在住の65歳以上で 要支援・要介護認定を 受けていない人5,000人 (無作為抽出)	市内在住の65歳以上で 要支援認定を受けている人 5,000人(無作為抽出)	要介護認定を受けて在宅で 生活をしている人1,000人 (無作為抽出)
調査方法	郵送による配布・回収		
調査期間	令和2年1月20日～2月10日		
回収数 (有効回収数)	3,131部 (3,089部)	3,188部 (3,111部)	570部 (518部)
回収率 (有効回収率)	62.6% (61.8%)	63.8% (62.2%)	57.0% (51.8%)

### 3) 結果の概要の見方

- 図表内に付加されている「n」は質問に対する回答者数です。
- 結果数値は、少数点第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならないことがあります。
- 複数回答の場合、回答者数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が100%を超えます。
- クロス集計の図表内の「全体」には、性別不明、年齢不明、クロス項目が不明分も含まれます。
- クロス集計の結果については、各クロス項目において、他のクロス項目と比べて統計的に明らかな差異（統計的有意差）※を確認し、整理しています。

※ 統計的に明らかな差異（統計的有意差）については、 $\chi^2$  二乗検定により主に有意水準1% ( $p < 0.01$ ) で確認しました。

なお、 $\chi^2$  二乗検定は、回答者数から不明・無回答数を除いたデータ（実回答者数）で検定を行っているため、該当するクロス項目の「不明・無回答」の割合が大きいケースなどでは、検定結果として文章で記載している内容とクロス集計図表内のデータ（割合）とが対応しないことがあります。

また、ある選択肢について、該当するクロス項目の回答者数が、他のクロス項目と比べて明らかに少ない場合、 $\chi^2$  二乗検定による統計的有意差を確認できていない場合があります。

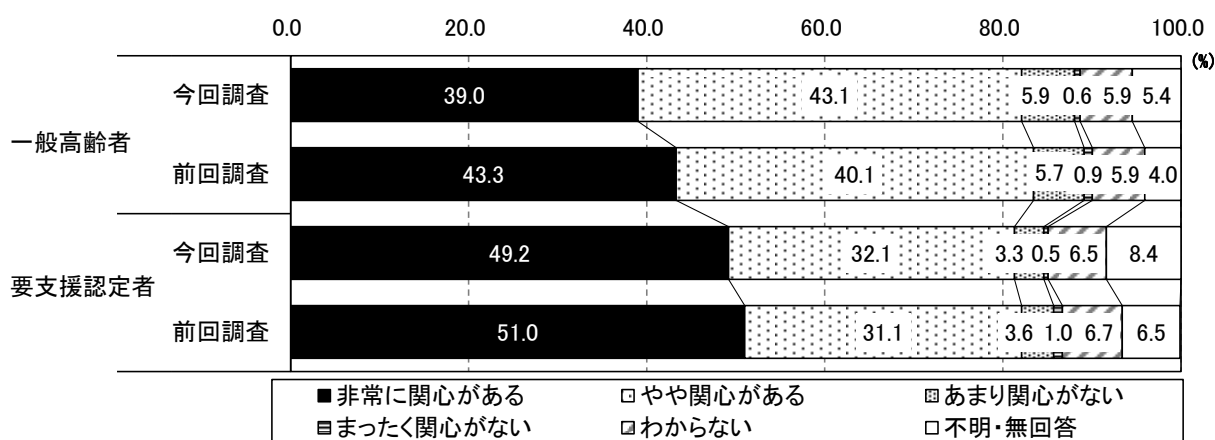
## 2. 結果の概要

### 1) 介護予防・要介護状態になるリスクについて

#### (1) 介護予防への関心【ニーズ調査：問9-1】

##### 一般高齢者／要支援認定者

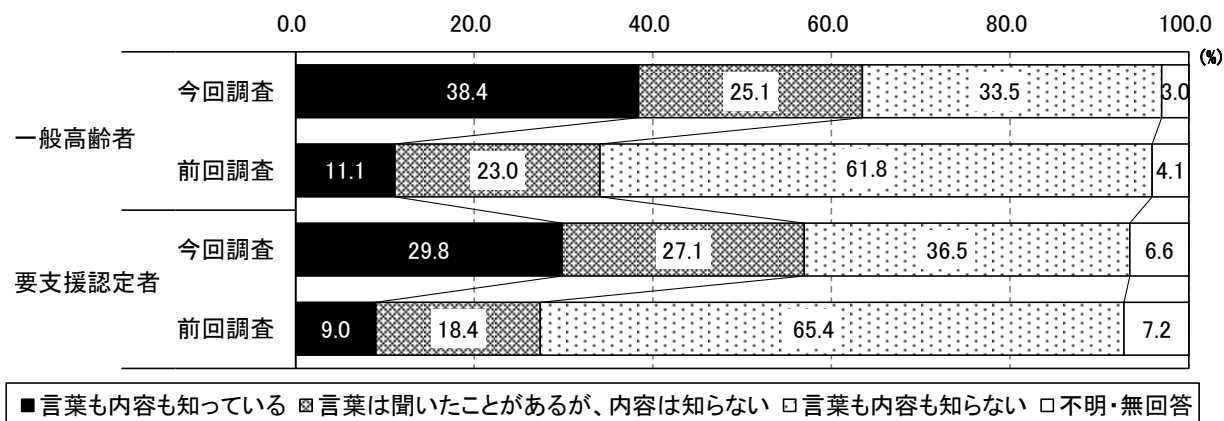
- 介護予防に関心がある人（「非常に関心がある」＋「やや関心がある」）は、一般高齢者で82.1%、要支援認定者では81.3%となっています。
- 一般高齢者では「非常に関心がある」は39.0%で、前回調査（43.3%）から減少しており、介護予防への関心が薄くなっています。一方、要支援認定者では前回調査と統計的有意差はありません。



#### (2) フレイルの認知状況【ニーズ調査：問9-3】

##### 一般高齢者／要支援認定者

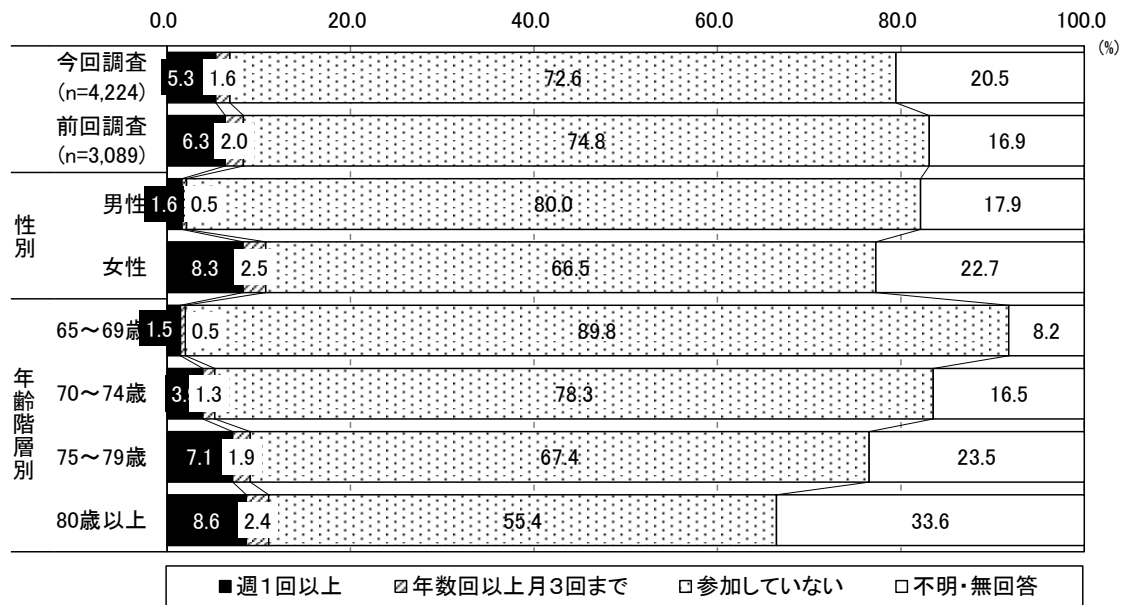
- フレイルについて「言葉も内容も知っている」は、一般高齢者で38.4%、要支援認定者で29.8%と、ともに前回調査から3倍以上増加しており、フレイルに関する認知がひろがっていることがわかります。



### (3) 西宮いきいき体操などへの参加頻度【ニーズ調査：問5-1(5)】

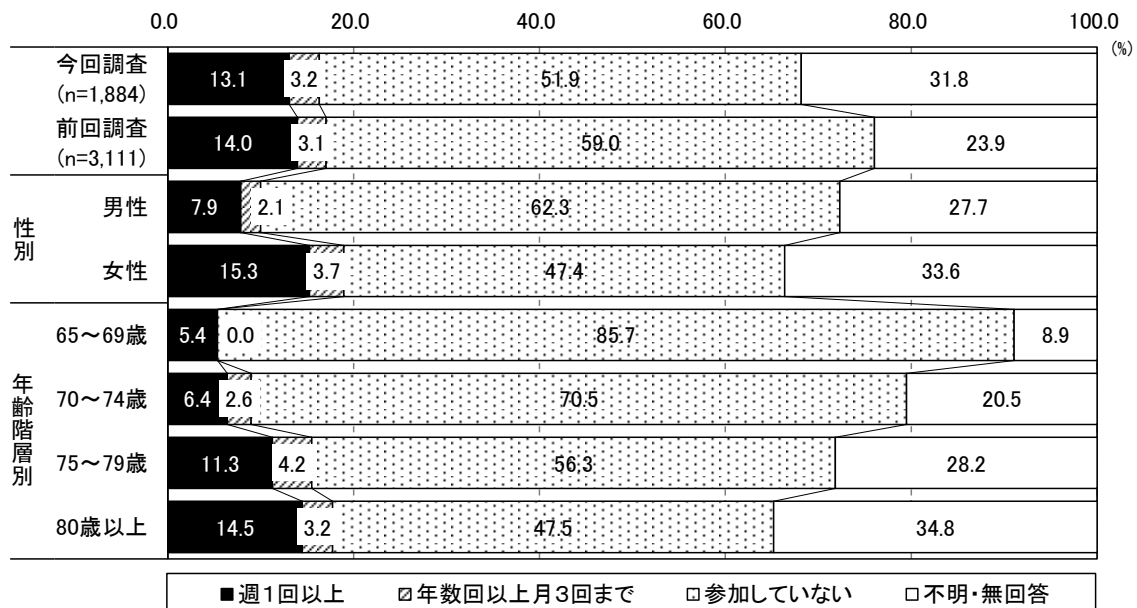
#### 一般高齢者

- 西宮いきいき体操などの介護予防のための通いの場への参加頻度をみると、「週1回以上」は5.3%で前回調査(6.3%)と統計的有意差はありません。
- 西宮いきいき体操などに参加している人(「週1回以上」「年数回以上月3回まで」)について、性別でみると、女性は男性と比べて多くなっており、年齢構成別でみると、75歳以上(後期高齢者)は65歳以上74歳以下(前期高齢者)と比べて多くなっています。



#### 要支援認定者

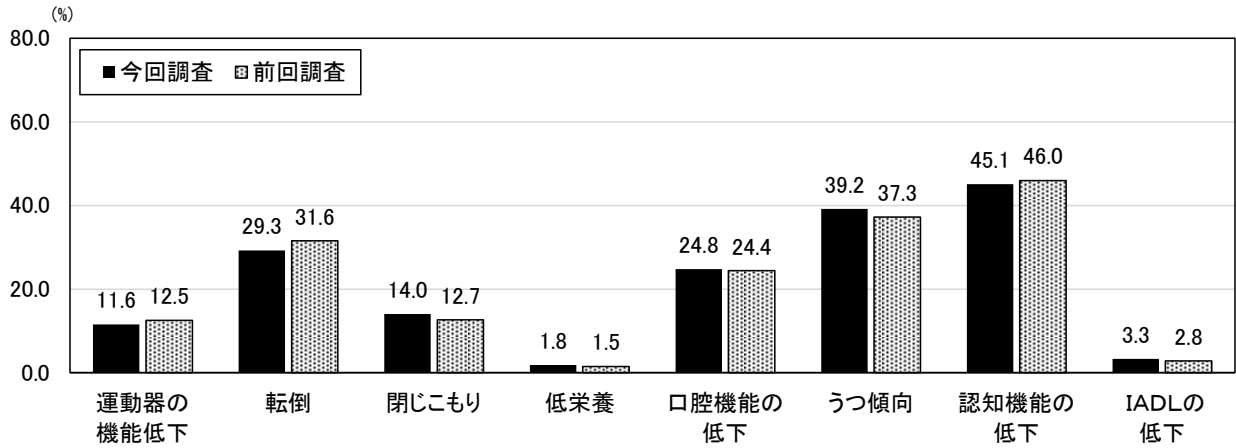
- 西宮いきいき体操などの介護予防のための通いの場への参加頻度をみると、「週1回以上」は13.1%で前回調査(14.0%)と統計的有意差はありません。
- 西宮いきいき体操などに参加している人(「週1回以上」「年数回以上月3回まで」)について、性別でみると、女性は男性と比べて多くなっており、年齢構成別でみると、75歳以上(後期高齢者)は65歳以上74歳以下(前期高齢者)と比べて多くなっています。



#### (4) 要介護状態になるリスクの状況【ニーズ調査】

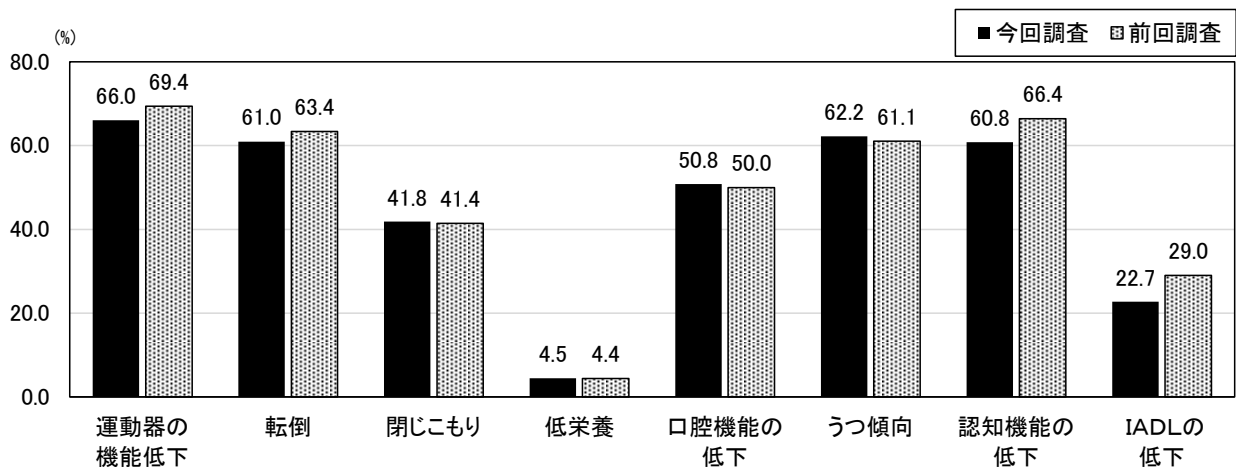
##### 一般高齢者

- 要介護状態になるリスクのある人の割合をみると、「認知機能の低下」リスクが45.1%で最も多く、「うつ傾向」リスク(39.2%)、「転倒」リスク(29.3%)がみつづいています。
- 前回調査と比較すると、「転倒」リスクがある人の割合が減少していますが、それ以外のリスクについて統計的有意差はありません。



##### 要支援認定者

- 要介護状態になるリスクのある人の割合をみると、「運動器の機能低下」リスクが66.0%で最も多く、「うつ傾向」リスク(62.2%)、「転倒」リスク(61.0%)がみつづいています。
- 前回調査と比較すると、「運動器の機能低下」リスクや「認知機能の低下」リスク、「IADLの低下」リスクがある人の割合が減少していますが、それ以外のリスクについて統計的有意差はありません。
- 一般高齢者に比べて要支援認定者では、「IADLの低下」リスクが6.8倍、「運動器の機能低下」リスクが5.7倍、「閉じこもり」リスクが3.0倍増加しています。

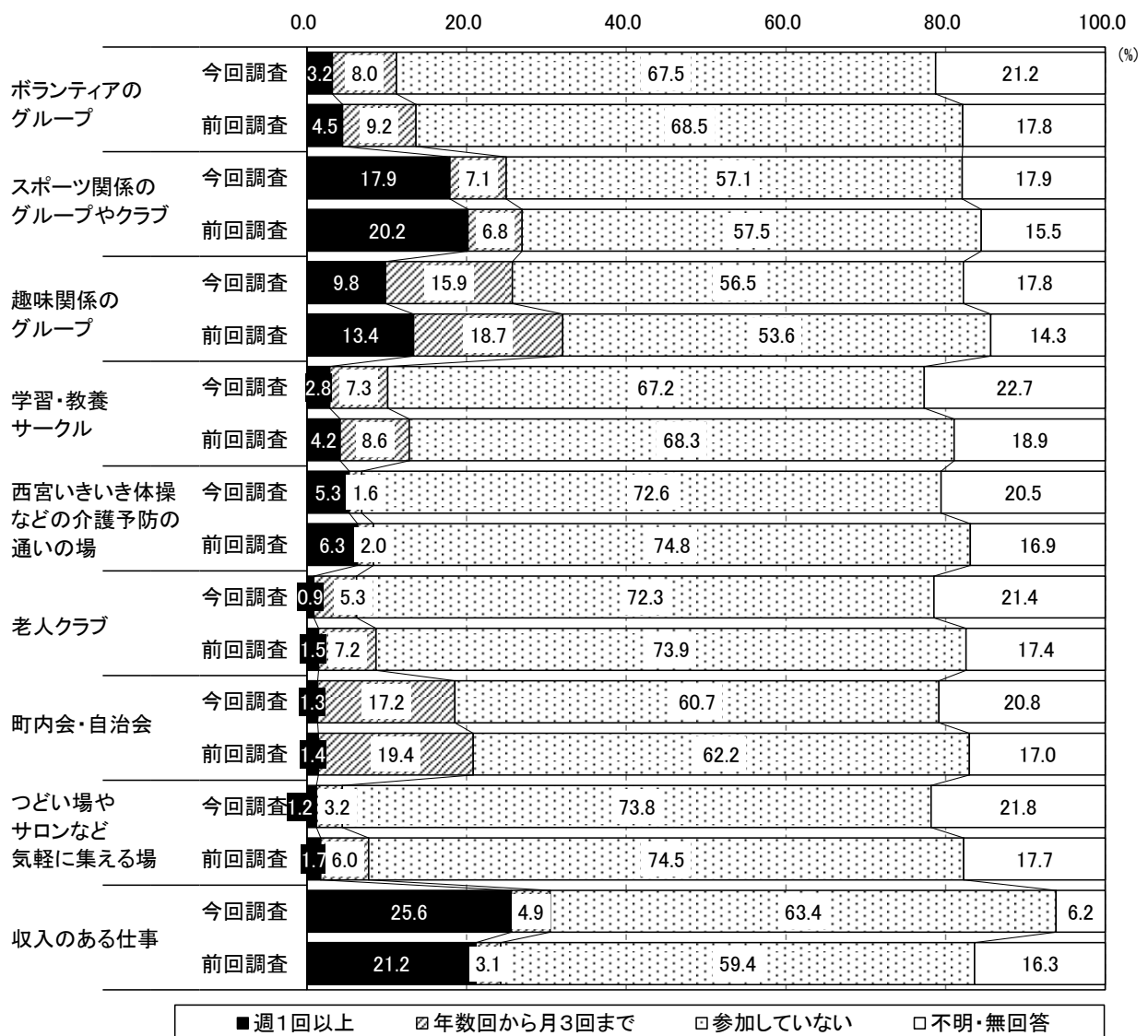


## 2) 地域活動、社会参加などについて

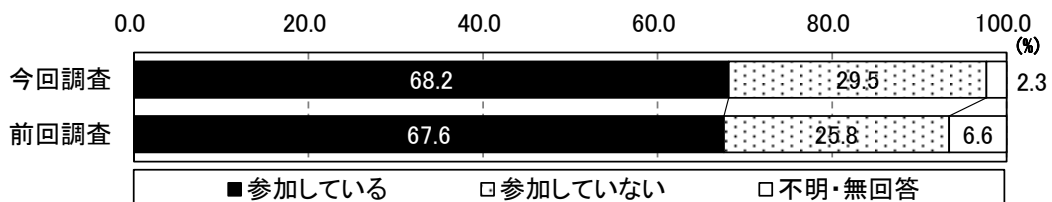
### (1) 地域での活動への参加頻度【ニーズ調査：問5-1】

#### 一般高齢者

- 地域での活動への参加頻度について、「週1回以上」参加している人を見ると、「収入のある仕事」25.6%が最も多く、「スポーツ関係のグループやクラブ」(17.9%)、「趣味関係のグループ」(9.8%)がつづきます。
- 前回調査と比べると、「収入のある仕事」は参加頻度が増加していますが、「趣味関係のグループ」や「ボランティアのグループ」「学習・教養のサークル」「老人クラブ」「気軽に集える場」では参加頻度が減少しています。

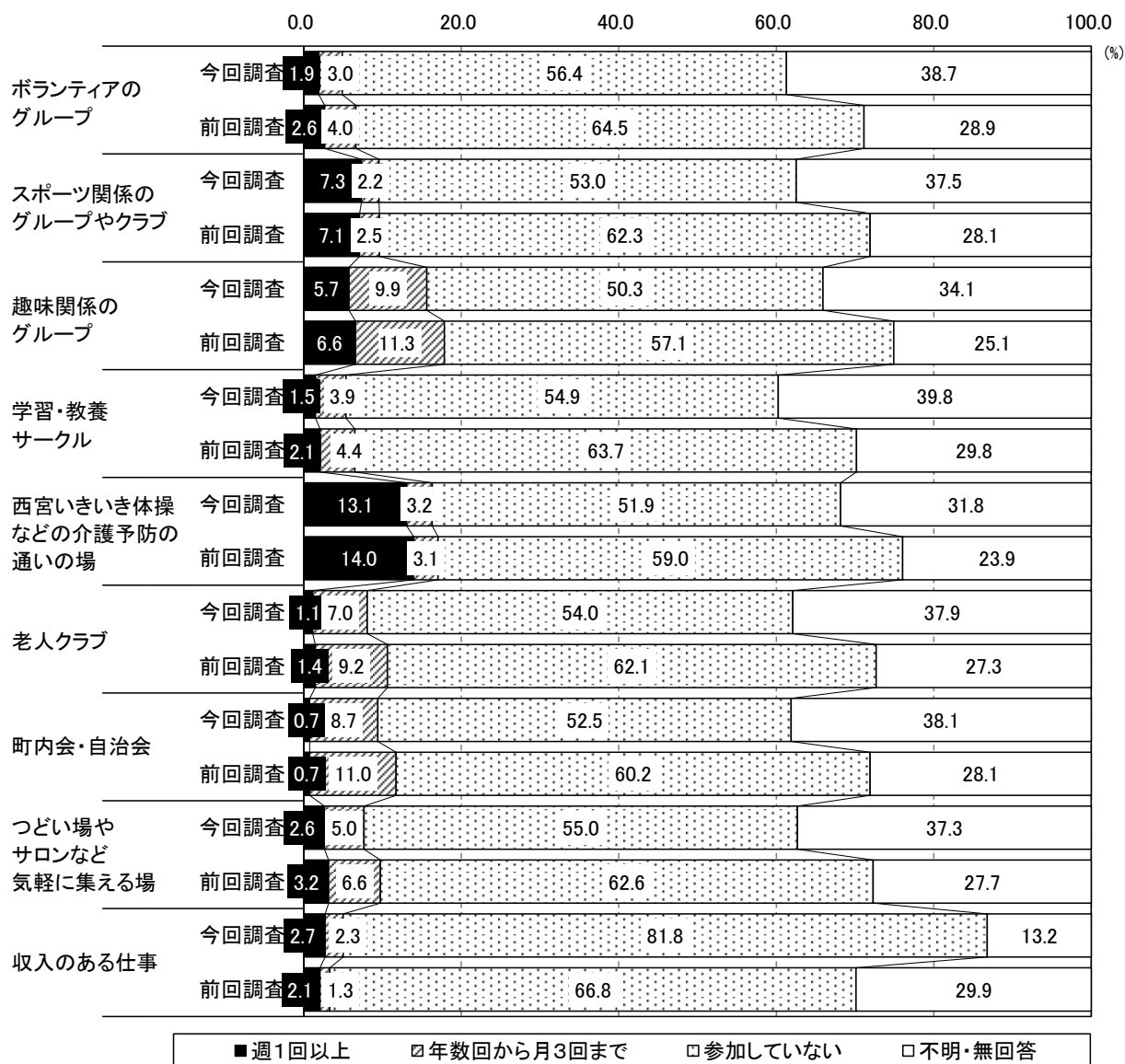


- 一般高齢者で、地域で何らかの会・グループ活動等に参加している人は68.2%で、前回調査(67.6%)と統計的有意差はありません。

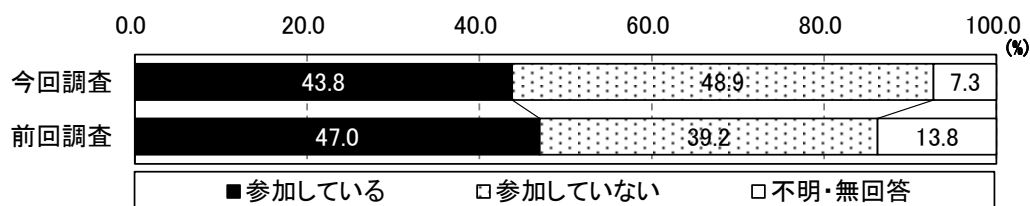


## 要支援認定者

- 地域での活動への参加頻度について、「週1回以上」参加している人をみると、「西宮いきいき体操などの介護予防の通いの場」が13.1%で最も多く、「スポーツ関係のグループやクラブ」(7.3%)、「趣味関係のグループ」(5.7%)がつづきます。
- 前回調査と比べると、すべての活動で統計的有意差はありません。



- 要支援認定者で、地域で何らかの会・グループ活動等に参加している人は43.8%で、前回調査(47.0%)から減少しています。

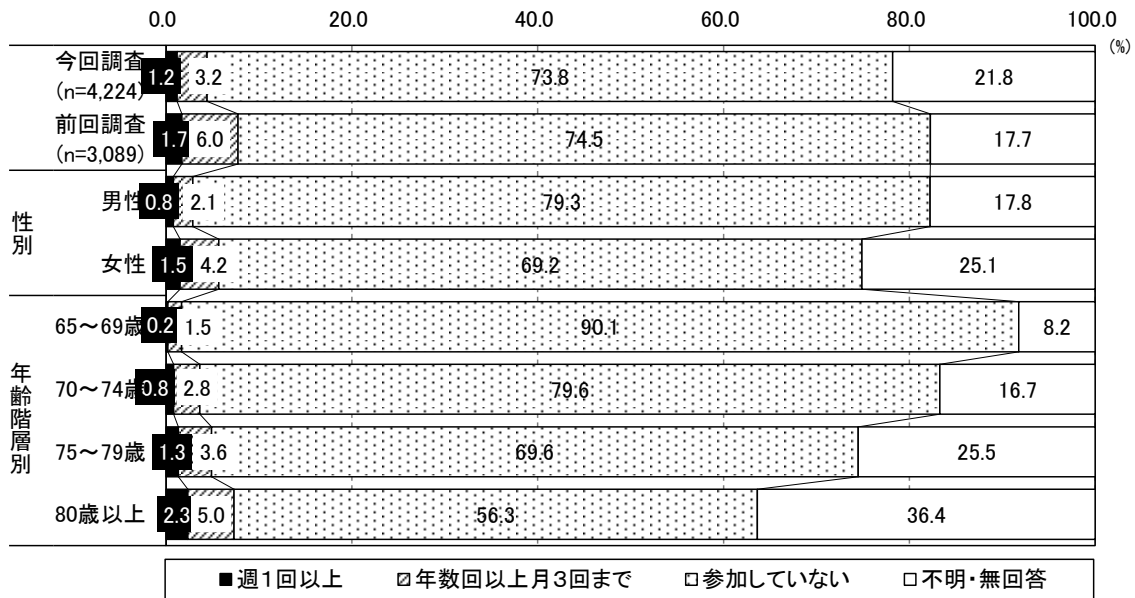




(2) つどいの場やサロンなどの参加頻度【ニーズ調査：問9（8）】

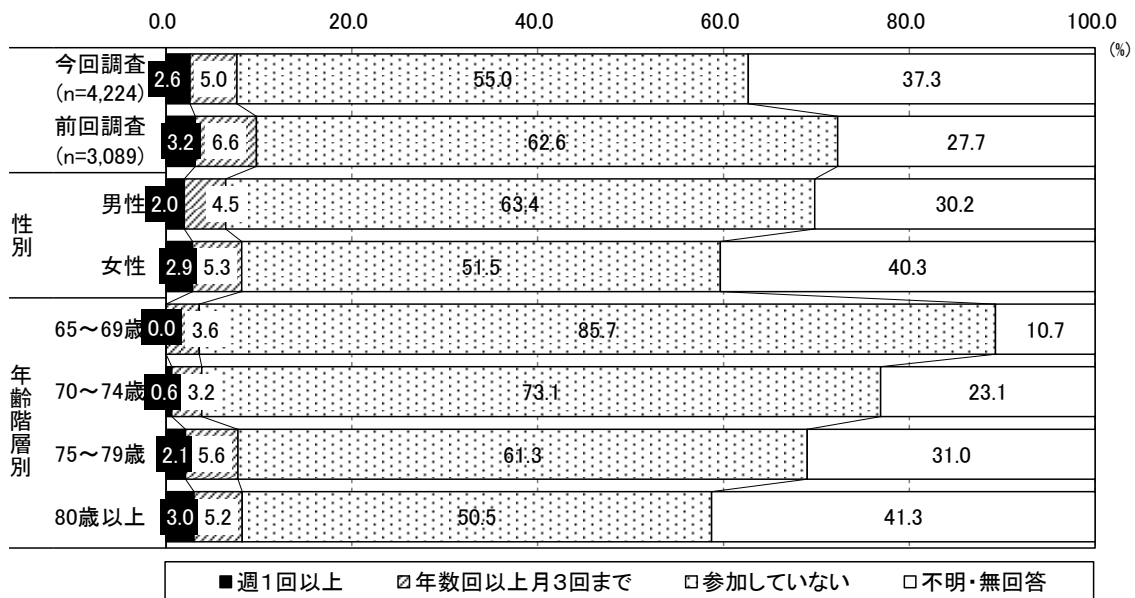
一般高齢者

- つどいの場やサロン、老人いこいの家など気軽に参加する場への参加頻度をみると、「週1回以上」は1.2%となっており、前回調査（1.7%）から減少しています。
- 気軽に参加する場に参加している人（「週1回以上」「年数回以上月3回まで」）について、性別で見ると、女性は男性と比べて多くなっており、年齢構成別で見ると、80歳以上は79歳以下と比べて多くなっていきます。



要支援認定者

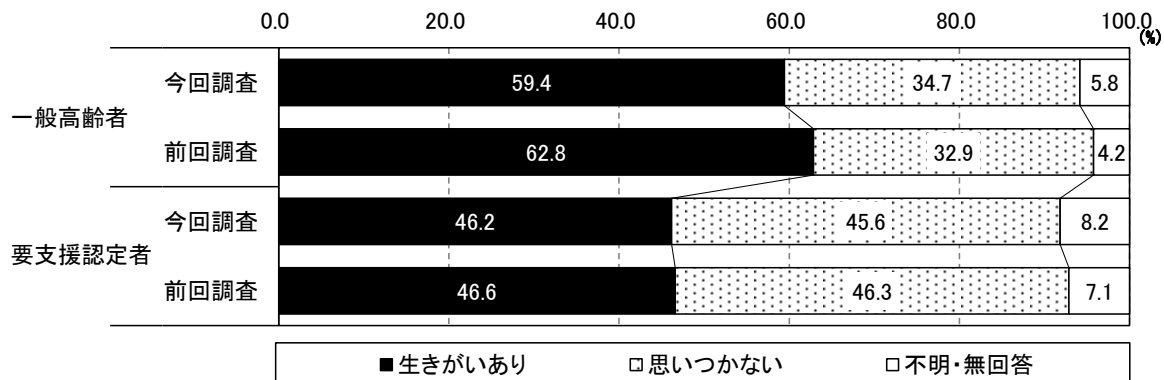
- つどいの場やサロン、老人いこいの家など気軽に参加する場への参加頻度をみると、「週1回以上」は2.6%となっており、前回調査（3.2%）と統計的有意差はありません。
- 気軽に参加する場に参加している人（「週1回以上」「年数回以上月3回まで」）について、性別で見ると、女性は男性と比べて多くなっており、年齢構成別で見ると、80歳以上は79歳以下と比べて多くなっていきます。



(3) 生きがいの有無【ニーズ調査：4-1-(12)】

一般高齢者／要支援認定者

- 生きがいのある人は、一般高齢者で59.4%となっており、前回調査(62.8%)から減少しています。一方、要支援認定者では46.2%となっており、前回調査(46.6%)と統計的有意差はありません。



### 3) 日常生活について

#### (1) まわりの人とのたすけあいの状況【ニーズ調査：問6-1】

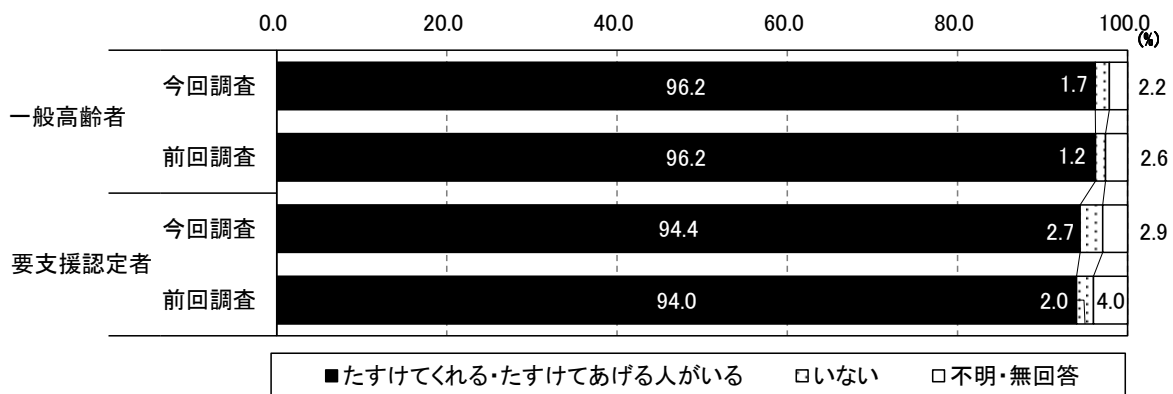
##### 一般高齢者/要支援認定者

- 心配事などを聞いてくれる人、聞いてあげる人、看病・世話をしてくれる人、してあげる人といったたすけあう人を見ると、一般高齢者と要支援認定者ともに「配偶者」と「別居の子ども」が多くなっています。また、「そのような人はいない」は、特に自身がたすける側になるパターンで、要支援認定者が一般高齢者より多くなっています。

一般高齢者 (n=4,224)	(1)あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人	(2)反対にあなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人	(3)病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人	(4)反対に、看病や世話をしてくれる人
配偶者	56.5	53.8	61.4	62.8
同居の子ども	17.0	16.0	20.8	19.5
別居の子ども	38.5	37.4	34.3	29.6
兄弟姉妹・親戚・親・孫	28.9	32.2	11.7	20.5
近隣	8.5	10.1	2.3	3.4
友人	49.5	50.1	5.6	8.6
その他	1.6	1.6	1.1	1.3
そのような人はいない	4.2	5.3	6.8	10.9
不明・無回答	2.9	3.4	2.8	4.5

要支援認定者 (n=1,884)	(1)あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人	(2)反対にあなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人	(3)病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人	(4)反対に、看病や世話をしてくれる人
配偶者	29.8	26.9	32.1	31.8
同居の子ども	16.2	12.4	21.6	11.7
別居の子ども	41.1	29.2	40.5	14.9
兄弟姉妹・親戚・親・孫	24.9	23.8	12.2	9.3
近隣	9.3	9.4	3.3	3.0
友人	33.8	33.7	5.7	5.8
その他	4.3	1.7	5.1	5.5
そのような人はいない	6.8	14.4	10.8	27.1
不明・無回答	5.4	8.1	5.0	13.4

- 心配事などを聞いてくれる人、聞いてあげる人、看病・世話をしてくれる人、してあげる人（たすけてくれる・たすけてあげる人）のいずれもない人について、一般高齢者では1.7%、要支援認定者では2.7%となっており、ともに前回調査と統計的有意差はありません。



(2) 家族や友人・知人以外での相談相手について【ニーズ調査：問6-2】

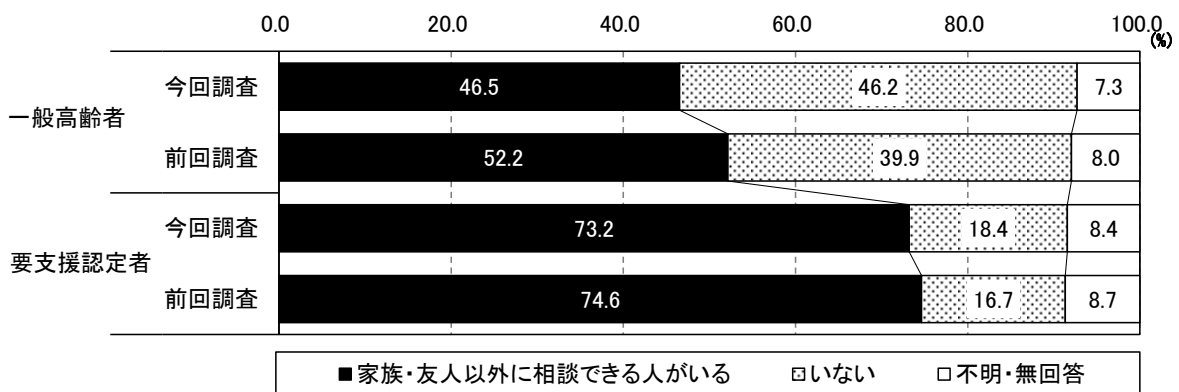
一般高齢者/要支援認定者

- 家族や友人・知人以外での相談相手について、一般高齢者では、「そのような人はいない」が46.2%で最も多く、「医師・歯科医師・看護師」(30.7%)、「地域包括支援センター・役所」(11.4%)がつづいており、「そのような人はいない」は前回調査(39.9%)から増加しています。
- 要支援認定者では、「ケアマネジャー」が49.5%で最も多く、「医師・歯科医師・看護師」(32.5%)、「地域包括支援センター・役所」(22.2%)がつづいています。

一般高齢者	今回調査	前回調査	要支援認定者	今回調査	前回調査
	(n=4,224)	(n=3,089)		(n=1,884)	(n=3,111)
医師・歯科医師・看護師	30.7	31.3	ケアマネジャー	49.5	48.3
地域包括支援センター・役所	11.4	12.8	医師・歯科医師・看護師	32.5	34.8
社会福祉協議会・民生委員	8.2	9.8	地域包括支援センター・役所	22.2	20.9
自治会・町内会・老人クラブ	5.6	6.8	社会福祉協議会・民生委員	9.9	12.2
ケアマネジャー	4.1	3.9	自治会・町内会・老人クラブ	4.6	5.1
その他	3.3	7.8	その他	3.4	5.5
そのような人はいない	46.2	39.9	そのような人はいない	18.4	16.7
不明・無回答	7.3	8.0	不明・無回答	8.4	8.7

- 家族や友人・知人以外での相談できる人がいる人の割合(全体から「そのような人はいない」と不明・無回答を引いた値)について、一般高齢者では46.5%で、前回調査(52.2%)から減少しています。

一方、要支援認定者では家族や友人・知人以外での相談できる人がいる人の割合が73.2%となっており、前回調査(74.6%)と統計的有意差はありません。



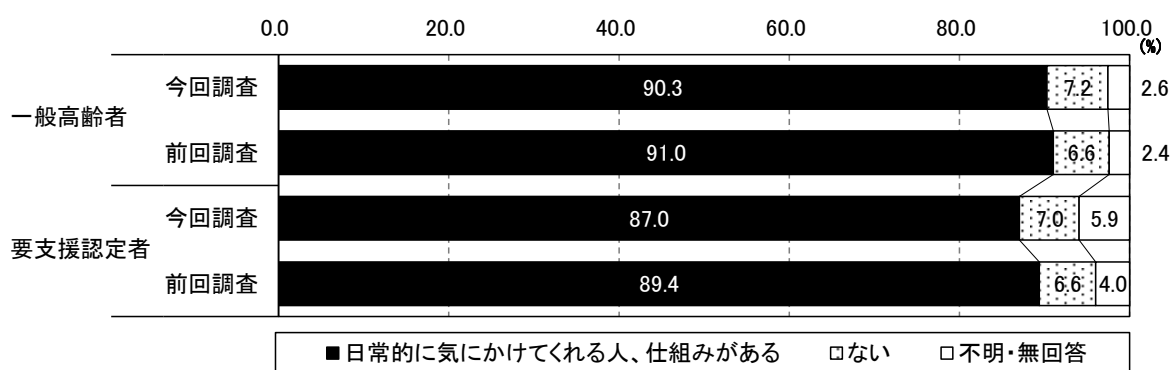
(3) 日常的に気にかけてくれる人・何か起きた時に気づいてくれる仕組みの有無  
【ニーズ調査：問6-6】

一般高齢者/要支援認定者

- 日常的に気にかけてくれる人・何か起きた時に気づいてくれる仕組みについて、一般高齢者では「日常的に気にかけてくれる家族・親戚がいる」が81.9%で最も多くなっています。また、要支援認定者でも「日常的に気にかけてくれる家族・親戚がいる」が74.5%で最も多くなっています。

一般高齢者	今回調査	前回調査	要支援認定者	今回調査	前回調査
	(n=4,224)	(n=3,089)		(n=1,884)	(n=3,111)
日常的に気にかけてくれる家族・親戚がいる	81.9	82.5	日常的に気にかけてくれる家族・親戚がいる	74.5	77.4
日常的に気にかけてくれる友人・知人がいる	28.2	29.3	日常的に気にかけてくれる友人・知人がいる	25.9	23.3
日常的に出かける場・機会がある	14.8	16.3	日常的に気にかけてくれる近所の人・地域の人がいる	20.0	20.7
日常的に気にかけてくれる近所の人・地域の人がいる	14.4	15.8	日常的に出かける場・機会がある	11.3	11.6
日常的に地域の見守り活動や声かけなどがある	2.1	2.7	日常的に地域の見守り活動や声かけなどがある	4.3	4.4
その他	1.4	1.5	その他	4.9	5.3
そのような人はいない・仕組みはない	7.2	6.6	そのような人はいない・仕組みはない	7.0	6.6
不明・無回答	2.6	2.4	不明・無回答	5.9	4.0

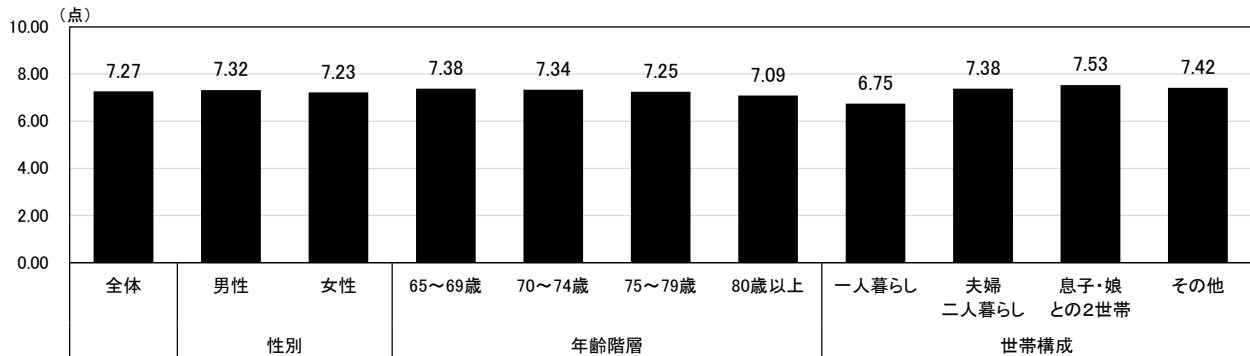
- 日常的に気にかけてくれる人・何か起きた時に気づいてくれる仕組みがある人の割合（全体から「そのような人はいない・仕組みはない」と不明・無回答を引いた値）について、一般高齢者では90.3%、要支援認定者では87.0%となっており、ともに前回調査と統計的有意差はありません。



#### (4) 地域で暮らしの安心度【ニーズ調査：問6-7】

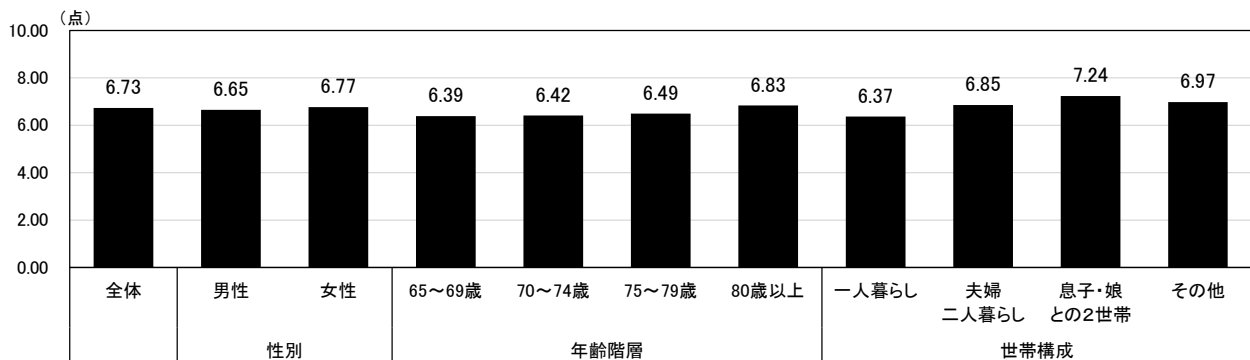
##### 一般高齢者

- お住いの地域での暮らしの安心度（10点満点）をみると、全体では7.27点となっています。
- 性別、年齢階層別による統計的有意差はありません。
- 世帯構成別でみると、一人暮らし世帯では6.75点となっており、他の世帯構成と比べて安心度が低くなっています。



##### 要支援認定者

- お住いの地域での暮らしの安心度（10点満点）をみると、全体では6.73点となっています。
- 性別による統計的有意差はありません。
- 年齢階層別でみると、80歳以上では6.83点となっており、79歳以下と比べて安心度が高くなっています。
- 世帯構成別でみると、一人暮らし世帯では6.37点となっており、他の世帯構成と比べて安心度が低くなっています。一方で、息子・娘との2世帯では7.24点となっており、他の世帯構成と比べて安心度が高くなっています。

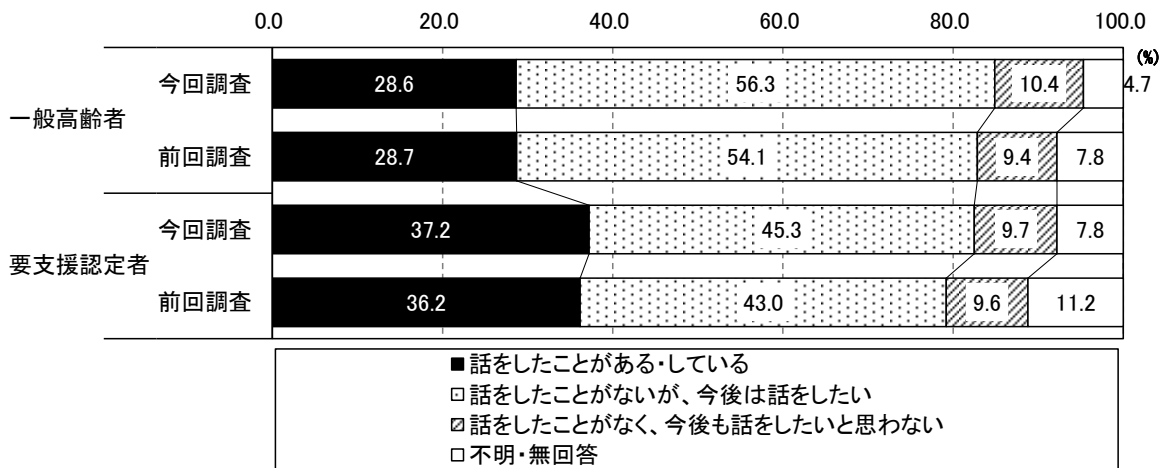


#### 4) 在宅医療について

##### (1) 介護・療養についての家族等との話し合いの状況 【ニーズ調査：問10-2】

###### 一般高齢者／要支援認定者

- 介護・療養が必要となった場合に暮らしたい場所について家族などと「話をしたことがある・している」人は、一般高齢者で28.6%、要支援認定者で37.2%となっており、ともに前回調査と統計的有意差はありません。

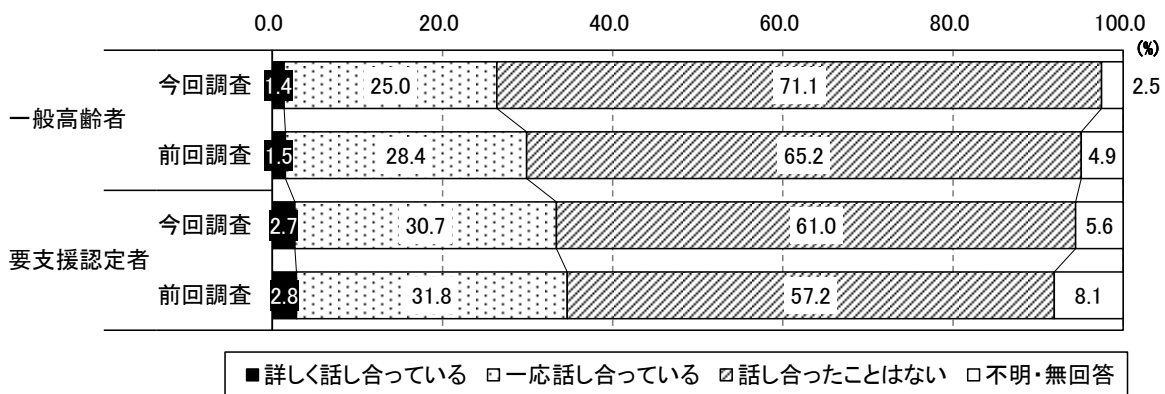


##### (2) 終末期の医療・介護に関する家族・医療介護関係者との話し合いの状況 【ニーズ調査：問10-4】

###### 一般高齢者／要支援認定者

- 死が近い場合に受けたい医療や介護について、家族や医療介護関係者と「詳しく話し合っている」人は、一般高齢者で1.4%、要支援認定者で2.7%となっており、ともに前回調査と統計的有意差はありません。

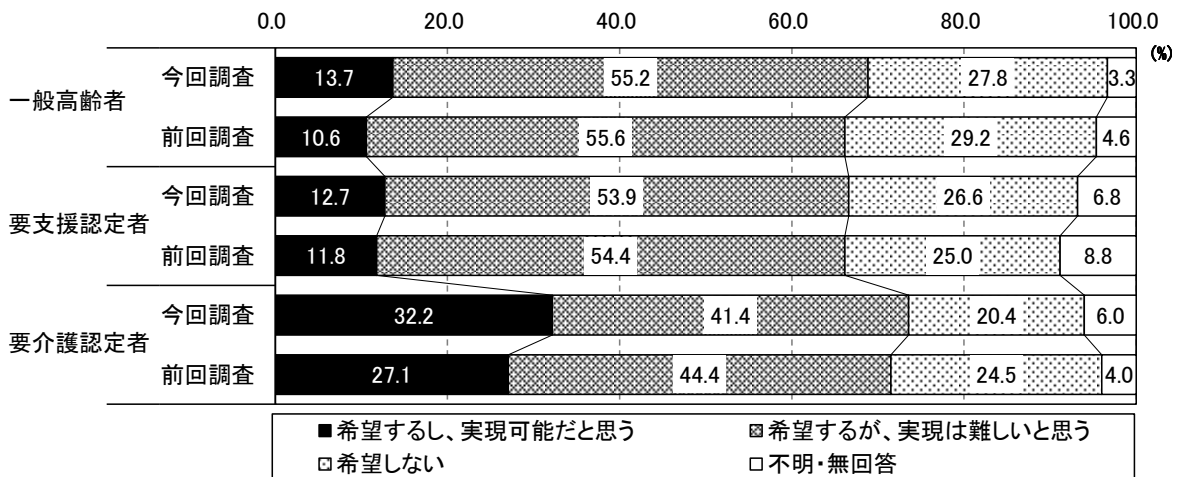
また、「一応話し合っている」人は、一般高齢者で25.0%となっており、前回調査(28.4%)から減少しています。



(3) 在宅医療の希望【ニーズ調査：問10-5、在宅介護実態調査：問12-1】

一般高齢者／要支援認定者／要介護認定者

- 一般高齢者では、将来、病気などで長期療養が必要となった場合、在宅で医療を受けながら療養したいかについて、「希望するが、実現は難しいと思う」が55.2%で最も多く、「希望しない」(27.8%)、「希望するし、実現可能だと思う」(13.7%)がつづいています。  
また、在宅医療を希望する人（「希望するし、実現可能だと思う」＋「希望するが、実現は難しいと思う」）は68.9%となっています。
- 要支援認定者では、「希望するが、実現は難しいと思う」が53.9%で最も多く、「希望しない」(26.6%)、「希望するし、実現可能だと思う」(12.7%)がつづいています。  
また、在宅医療を希望する人（「希望するし、実現可能だと思う」＋「希望するが、実現は難しいと思う」）は66.6%となっています。
- 要介護認定者（訪問診療を利用していない人）では、「希望するが、実現は難しいと思う」が41.4%で最も多く、「希望するし、実現可能だと思う」(32.2%)、「希望しない」(20.4%)がつづいています。  
また、在宅医療を希望する人（「希望するし、実現可能だと思う」＋「希望するが、実現は難しいと思う」）は73.6%となっています。
- 在宅医療を希望する人について、要介護認定者は73.6%となっており、一般高齢者（68.9%）と要支援認定者（66.6%）を5～7ポイント程度上回っています。  
また、「希望するし、実現可能だと思う」については、要介護認定者では32.2%となっており、一般高齢者と要支援認定者を2.5倍程度上回っています。
- 一般高齢者と要介護認定者では「希望するし、実現可能だと思う」が前回調査から増加していますが、要支援認定者では前回調査と統計的有意差はありません。





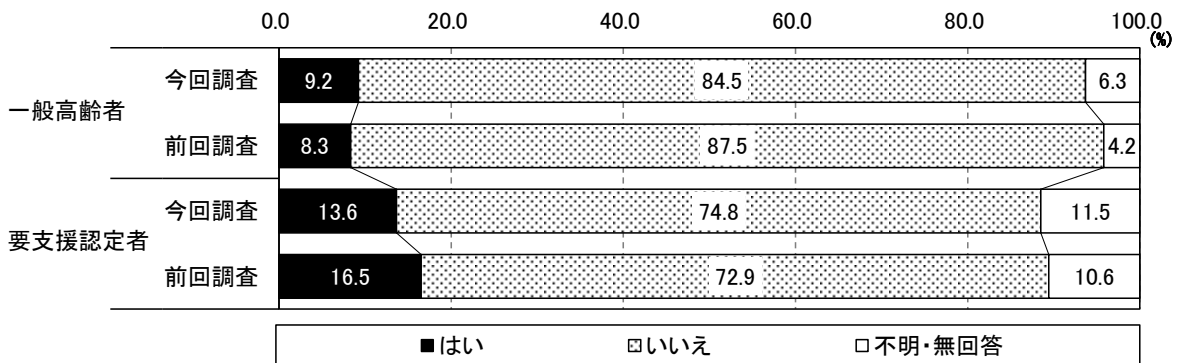
## 5) 認知症支援について

### (1) 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人

#### ① 認知症の当事者（認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人）【ニーズ調査：問8-4】

##### 一般高齢者/要支援認定者

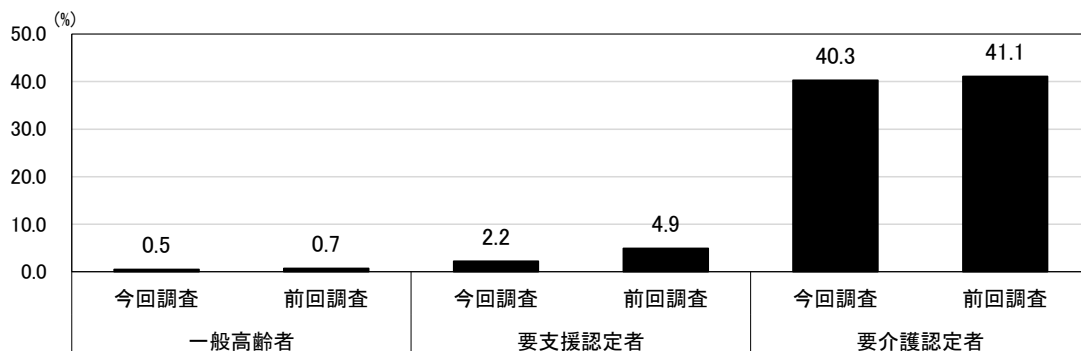
- 認知症の当事者（本人・家族）は、一般高齢者で 9.2%、要支援認定者で 13.6%となっています。



#### ② 認知症の症状がある人【ニーズ調査：問8-4、在宅介護実態調査：問11】

##### 一般高齢者/要支援認定者/要介護認定者

- 現在治療中、は後遺症のある病気として「認知症（アルツハイマー病等）」と回答した人は、一般高齢者で 0.5%、要支援認定者で 2.2%となっています。また、要支援認定者で「認知症（アルツハイマー病等）」と回答した人は前回調査から減少しています。
- 現在抱えている傷病として「認知症」と回答した要介護認定者は 40.3%となっています。

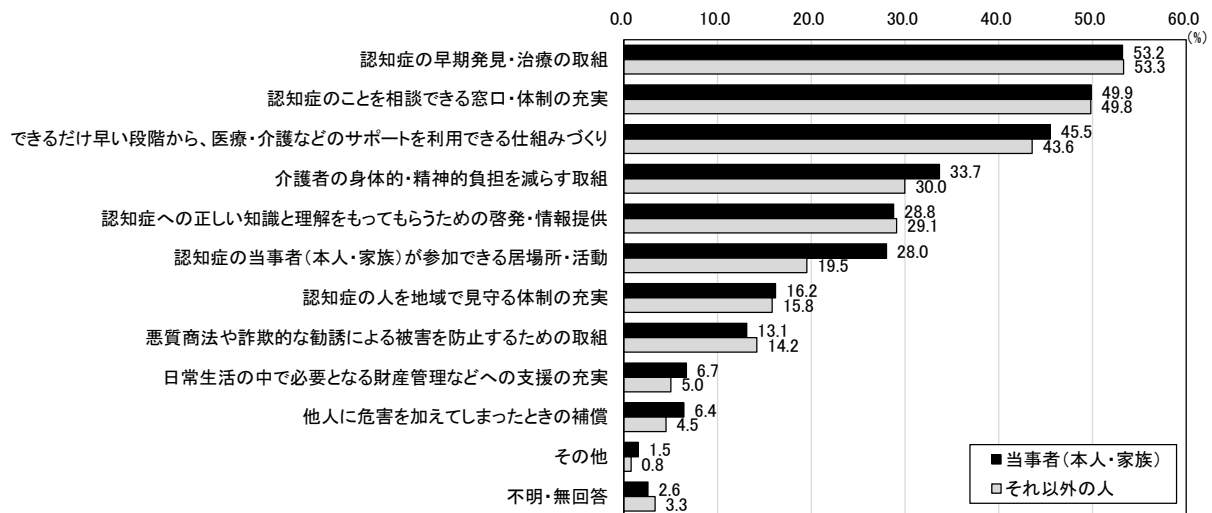


## (2) 必要な認知症支援策【ニーズ調査：問8-1、在宅介護実態調査：問14】

### 一般高齢者

- 必要な認知症支援策について、当事者（本人・家族）では、「認知症の早期発見・治療の取組」が最も多く、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」「できるだけ早い段階から、医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり」がつづきます。

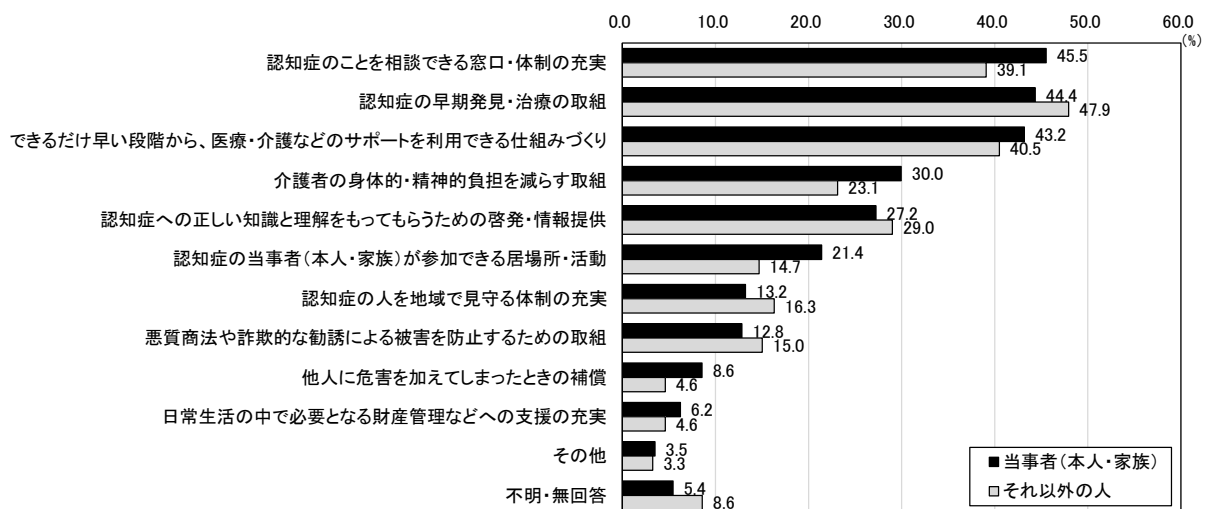
また、当事者（本人・家族）では、「介護者の身体的・精神的負担を減らす取組」と「認知症の当事者（本人・家族）が参加できる居場所・活動」が、それ以外の人より多くなっています。



### 要支援認定者

- 必要な認知症支援策について、当事者（本人・家族）では、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」が最も多く、「認知症の早期発見・治療の取組」「できるだけ早い段階から、医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり」がつづきます。

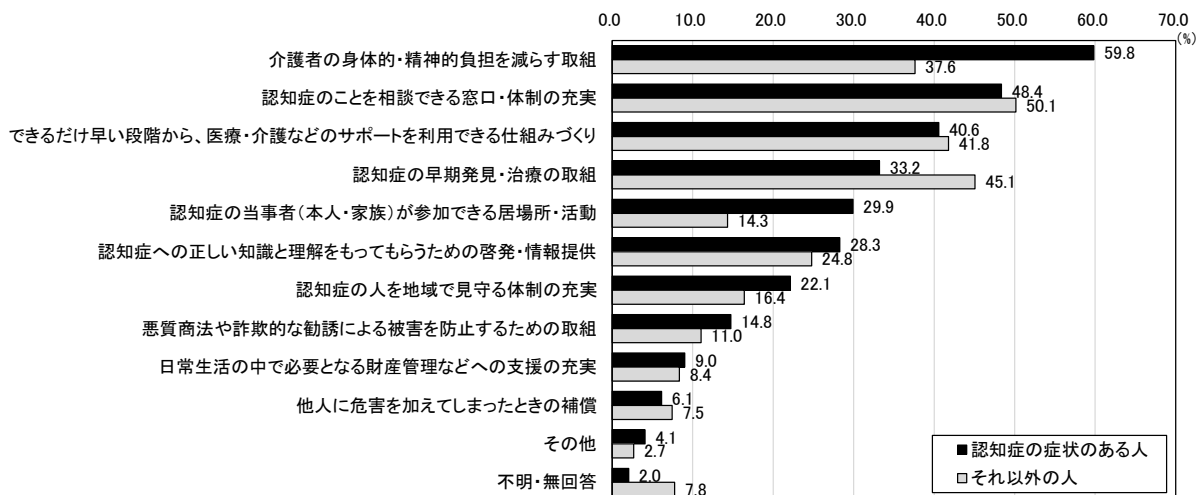
また、当事者（本人・家族）では、「介護者の身体的・精神的負担を減らす取組」と「認知症の当事者（本人・家族）が参加できる居場所・活動」が、それ以外の人より多くなっています。



## 要介護認定者

- 認知症の症状がある人では、「介護者の身体的・精神的負担を減らす取組み」が最も多く、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」「できるだけ早い段階から、医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり」がつづきます。

また、認知症の症状がある人では、「介護者の身体的・精神的負担を減らす取組み」や「認知症の当事者（本人・家族）が参加できる居場所・活動」「認知症の人を地域で見守る体制の充実」が、それ以外の人より多くなっています。

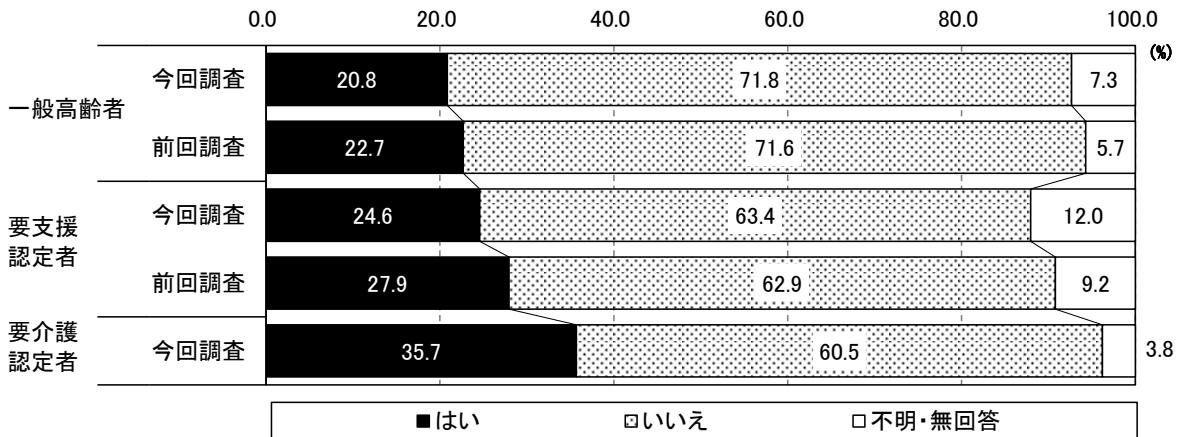


(3) 認知症に関する相談窓口の認知状況【ニーズ調査：問8-5、在宅介護実態調査：問16】

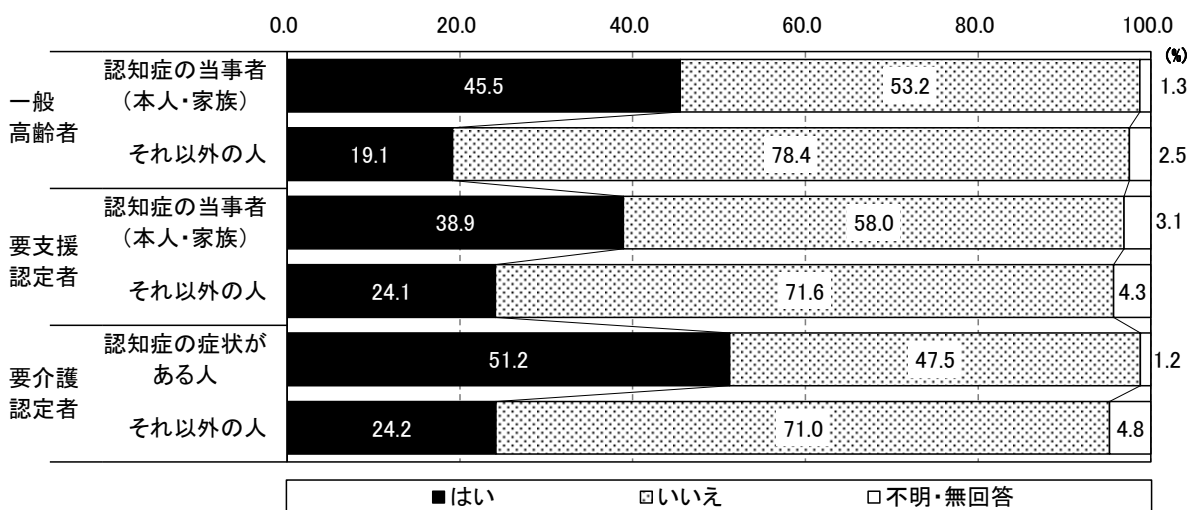
①認知症に関する相談窓口の認知率【ニーズ調査：問8-5、在宅介護実態調査：問16】

一般高齢者/要支援認定者/要介護認定者

- 認知症に関する相談窓口の認知率（「はい」の割合）は、一般高齢者で 20.8%、要支援認定者で 24.6%、要介護認定者で 35.7%となっています。また、要支援認定者の認知率（24.6%）は前回調査（27.9%）から減少しています。



- 一般高齢者について、認知症の当事者（本人・家族）では、認知症に関する相談窓口の認知率（「はい」の割合）が 45.5%となっており、それ以外の人（19.1%）を 2 倍以上上回っています。
- 要支援認定者について、認知症の当事者（本人・家族）では、認知症に関する相談窓口の認知率（「はい」の割合）が 38.9%となっており、それ以外の人（24.1%）を 1.6 倍程度上回っています。
- 要介護認定者について、認知症の症状がある人では、認知症に関する相談窓口の認知率（「はい」の割合）が 51.2%となっており、それ以外の人（24.2%）を 2 倍程度上回っています。



②認知症に関する相談窓口の具体的な内容【ニーズ調査：問8-5-1、在宅介護実態調査：問16-1】

一般高齢者/要支援認定者/要介護認定者

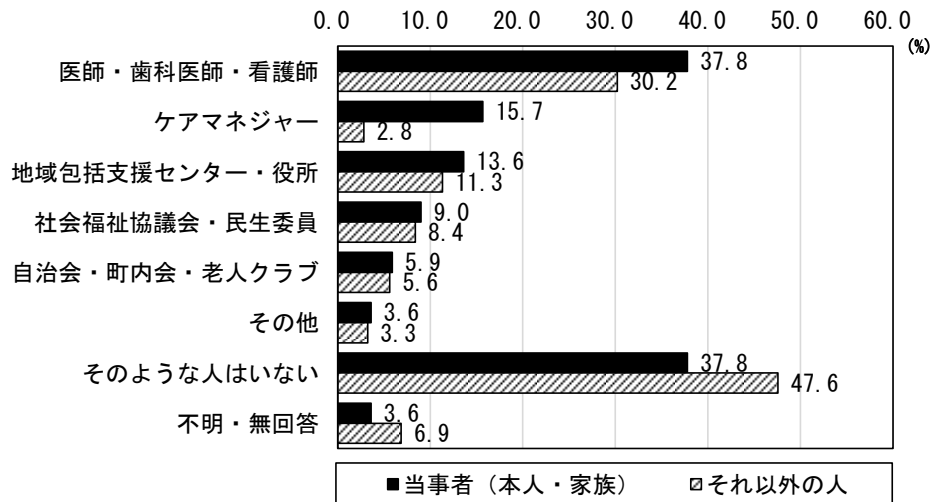
- 認知症に関する相談窓口を知っている人について、知っている相談窓口をみると、一般高齢者や要支援認定者、要介護認定者のすべてで「西宮市高齢者あんしん窓口（地域包括支援センター）」が8割前後を占めて最も多く、「医療機関（病院、かかりつけ医など）」が6割台半ば、「民生委員児童委員」が2～3割程度でつづいています。

	一般高齢者 (n=880)	要支援認定者 (n=463)	要介護認定者 (n=216)
西宮市高齢者あんしん窓口（地域包括支援センター）	78.6	79.5	83.8
医療機関（病院、かかりつけ医など）	62.5	64.8	64.4
民生委員児童委員	31.1	23.3	24.5
精神保健福祉相談（保健所、各保健福祉センターで実施）	11.1	7.8	7.9
認知症疾患医療センター	6.1	6.7	6.0
認知症つながり推進員（認知症地域支援推進員）	3.2	3.7	4.6
その他	1.1	2.4	3.7
不明・無回答	0.7	0.4	0.0

(4) 認知症の当事者（本人・家族）の家族や友人・知人以外での相談相手について  
【ニーズ調査：問6-2】

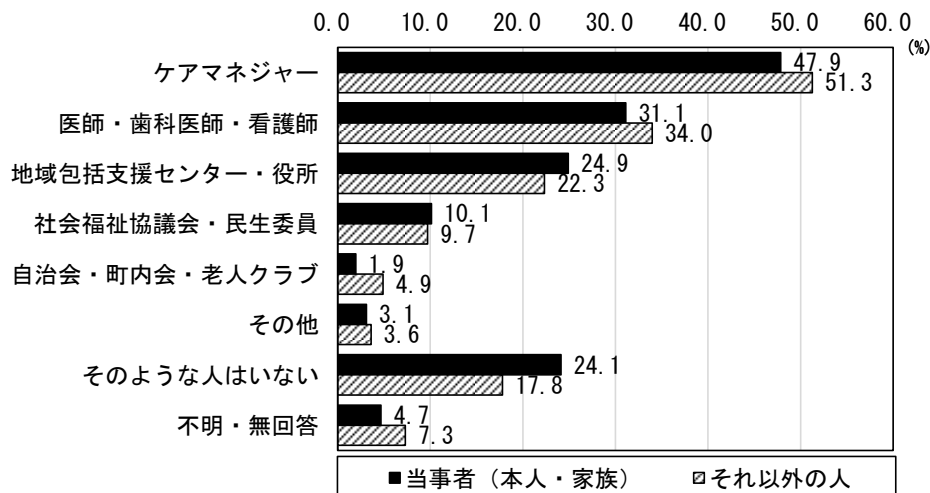
一般高齢者

- 家族や友人・知人以外での相談相手について、認知症の当事者（本人・家族）では、「医師・歯科医師・看護師」と「そのような人はいない」がともに37.8%で最も多く、「ケアマネジャー」（15.7%）、「地域包括支援センター・役所」（13.6%）がつづきます。また、「ケアマネジャー」については当事者（本人・家族）がそれ以外の人と比べて多くなっています。
- 家族や友人・知人以外での相談できる人がいる人の割合（全体から「そのような人はいない」と不明・無回答を引いた値）は当事者（本人・家族）で58.6%となっており、それ以外の人（45.6%）を10ポイント以上上回っています。一方、前回調査（57.9%）と統計的有意差はありません。



要支援認定者

- 家族や友人・知人以外での相談相手については、認知症の当事者（本人・家族）では、「ケアマネジャー」が47.9%で最も多く、「医師・歯科医師・看護師」（31.1%）、「地域包括支援センター・役所」（24.9%）がつづきます。
- 家族や友人・知人以外での相談できる人がいる人の割合（全体から「そのような人はいない」と不明・無回答を引いた値）は当事者（本人・家族）で71.2%となっており、それ以外の人（74.9%）と統計的有意差はありません。一方、前回調査（76.4%）と比べると減少しています。

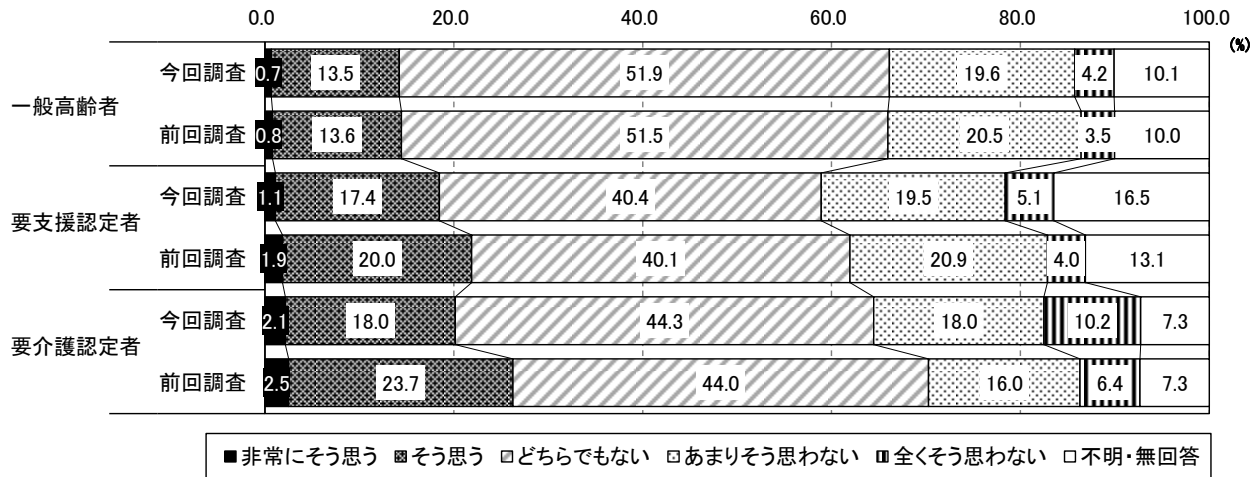


(5) 認知症の方にとって安心して暮らすことができるまちについて【ニーズ調査：問8  
- 6、在宅介護実態調査：問17】

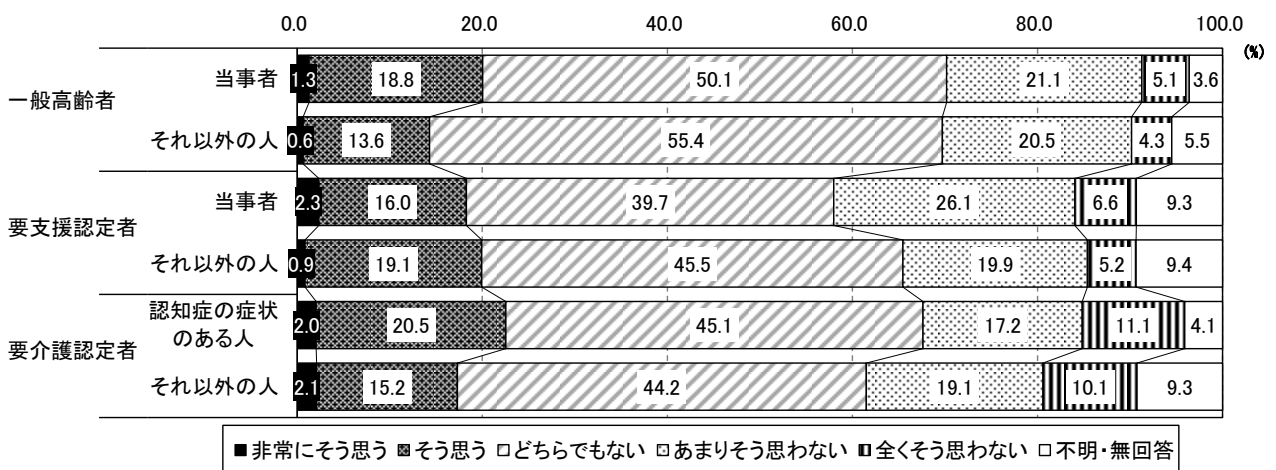
一般高齢者/要支援認定者/要介護認定者

● 西宮市が「認知症の方にとって安心して暮らすことができるまち」と思う人の割合（「非常にそう思う」＋「そう思う」）について、一般高齢者では14.2%となっており、前回調査（14.4%）と統計的有意差はありません。

一方、要支援認定者では18.5%、要介護認定者では20.1%となっており、ともに前回調査から減少しています。



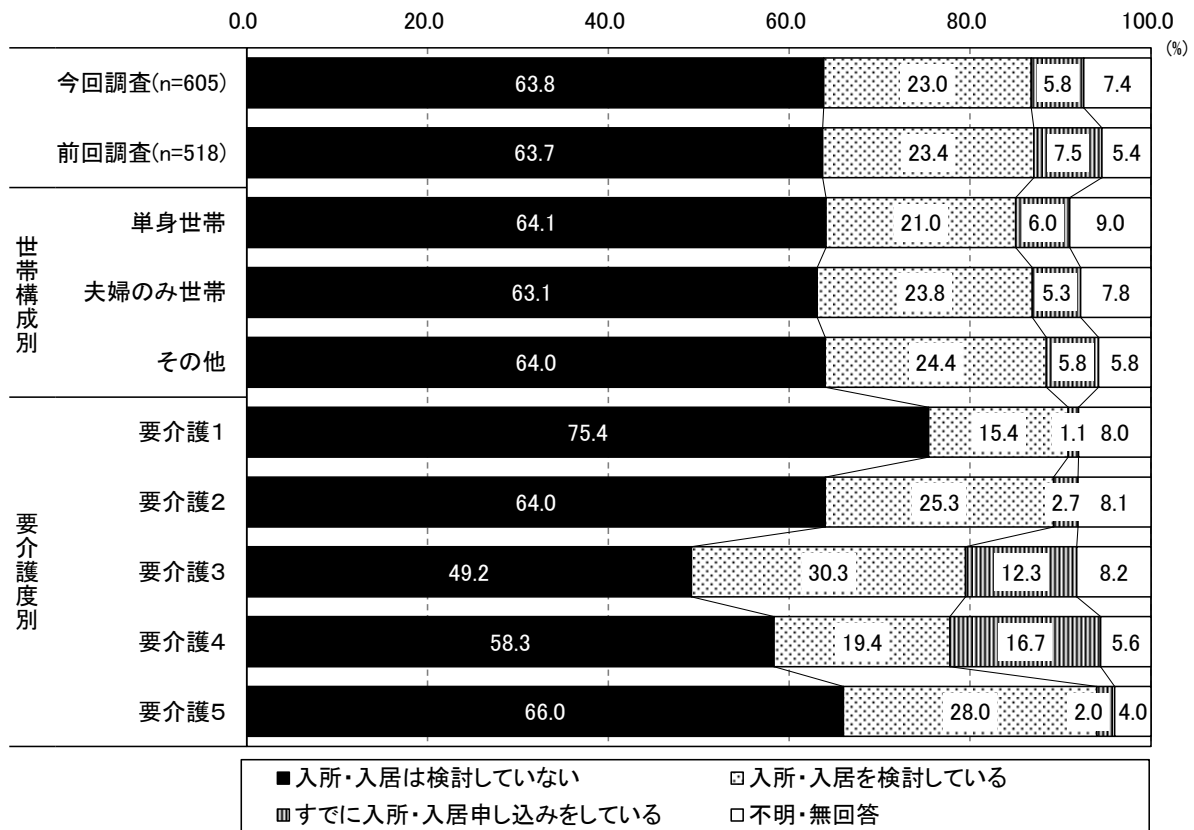
- 一般高齢者について、西宮市が「認知症の方にとって安心して暮らすことができるまち」かについて「そう思う」人が、認知症の当事者（本人・家族）で多くなっています。
- 要支援認定者について、西宮市が「認知症の方にとって安心して暮らすことができるまち」かについて「あまりそう思わない」人が、認知症の当事者（本人・家族）では多くなっています。
- 要介護認定者について、認知症の症状がある人とそれ以外の人と統計的有意差はありません。



## 6) 在宅介護について《要介護認定者のみ》

### (1) 施設等への入所・入居検討状況【在宅介護実態調査：問10】

- 現時点で施設等への入所・入居の検討状況を見ると、「入所・入居は検討していない」が63.8%で最も多く、「入所・入居を検討している」(23.0%)、「すでに入所・入居申し込みをしている」(5.8%)がつついています。また、前回調査と比べても統計的有意差はありません。
- 世帯構成別で見ると、すべての世帯構成で「入所・入居は検討していない」が60%を超えて最も多くなっています。
- 要介護度別で見ると、すべての要介護度で「入所・入居は検討していない」が最も多くなっていますが、特に、要介護1では75.4%となっており、他要介護度より多くなっています。また、「入所・入居を検討している」では要介護3、「すでに入所・入居申し込みをしている」では要介護3・4が他要介護度より多くなっています。



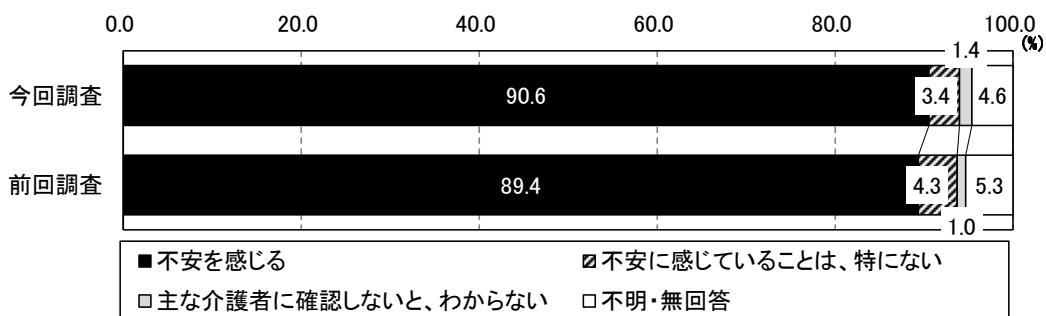


(2) 在宅生活の継続に向けて主な介護者が不安に感じる介護【在宅介護実態調査：問 23】

- 在宅生活の継続に向けて主な介護者が不安に感じる介護等については、「認知症状への対応」が 39.4%で最も多く、「夜間の排泄」(33.9%)、「入浴・洗身」(31.7%)、「日中の排泄」と「外出の付き添い、送迎等」(ともに 25.9%) がつづいています。
- 要介護別でみると、要介護 1・2 では、「認知症状への対応」が 40.5%で最も多く、「入浴・洗身」(29.7%)、「外出の付き添い、送迎等」(28.7%)、「夜間の排泄」(26.9%) がつづいています。一方、要介護 3 以上でも、「夜間の排泄」が 42.9%で最も多く、「認知症状への対応」(37.9%)、「入浴・洗身」(34.2%)、「日中の排泄」(33.3%)がつづいています。

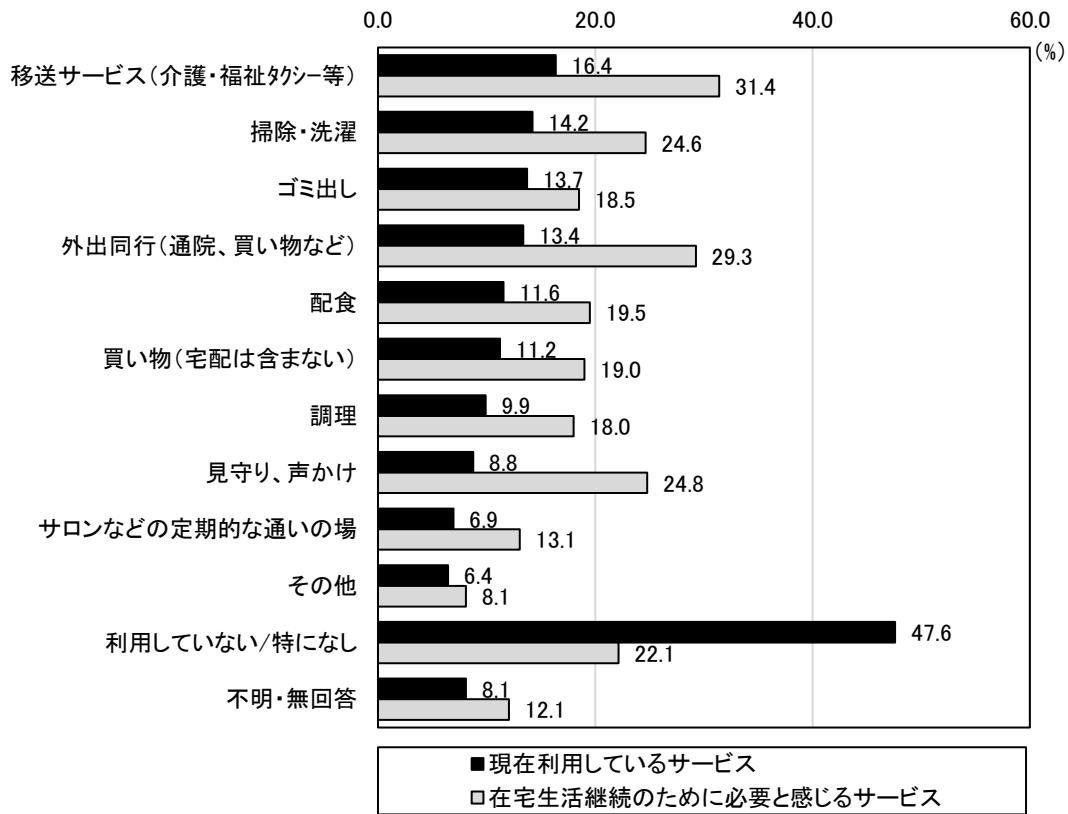
	全体(n=499)	要介護1・2(n=279)	要介護3以上(n=219)
認知症状への対応	39.4	40.5	37.9
夜間の排泄	33.9	26.9	42.9
入浴・洗身	31.7	29.7	34.2
日中の排泄	25.9	20.1	33.3
外出の付き添い、送迎等	25.9	28.7	22.4
食事の準備(調理等)	21.1	21.9	20.1
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	19.9	21.1	18.3
屋内の移乗・移動	16.3	14.7	18.3
その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)	15.1	18.3	11.0
服薬	13.1	15.4	10.0
衣服の着脱	10.0	9.3	11.0
医療面での対応(経管栄養、スーパ等)	9.8	7.5	12.8
食事の介助(食べる時)	9.2	5.4	14.2
身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	7.4	6.8	8.2
その他	6.8	5.7	8.2
不安に感じていることは、特にな	3.4	4.7	1.8
主な介護者に確認しないと、わから	1.4	2.2	0.5
不明・無回答	4.6	5.4	3.7

- 在宅生活の継続に向けて不安を感じる主な介護者の割合(全体から「不安に感じていることは、特にな」「主な介護者に確認しないと、わから」と不明・無回答を引いた値)は 90.6%となっており、前回調査(89.4%)と統計的有意差はありません。



### (3) 介護保険外の支援・サービスの利用状況、ニーズ【在宅介護実態調査：問8、9】

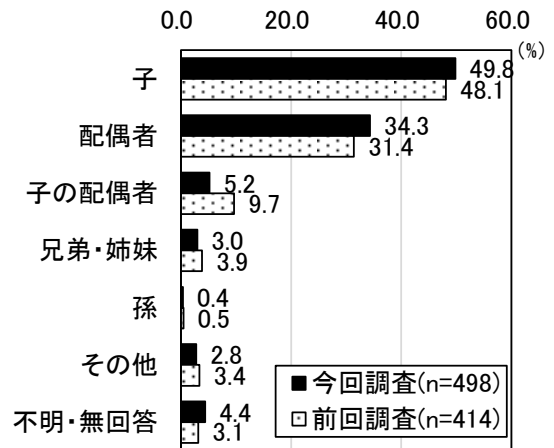
- 「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用状況については、「利用していない」が47.6%で最も多く、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（16.4%）、「掃除・洗濯」（14.2%）がつづいています。また、何らかの保険外の支援・サービスを利用している人の割合（全体から「利用していない」と不明・無回答を引いた値）は44.3%となっています。
- 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.4%で最も多く、「外出同行（通院、買い物など）」（29.3%）、「見守り、声かけ」（24.8%）がつづいています。また、今後の在宅生活の継続に向けて何らかの保険外の支援・サービスの利用などが必要と考える人の割合（全体から「特になし」と不明・無回答を引いた値）は65.8%となっています。
- 介護保険サービス以外の支援・サービスについて、全ての支援・サービスで、今後の在宅生活の継続に必要と感じる割合が、現在利用している割合を上回っており、潜在的なニーズがあることがうかがえます。特に、「見守り、声かけ」や「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー）」「サロンなどの定期的な通いの場」などについては、その傾向が強くなっています。



#### (4) 主な介護者の属性

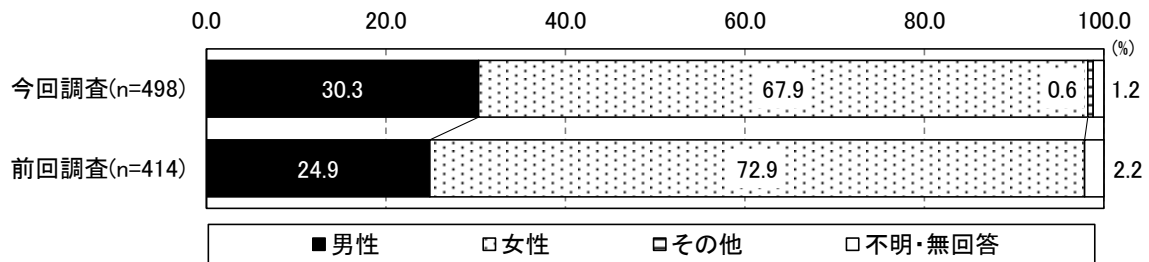
##### ①主な介護者の続き柄【在宅介護実態調査：問3】

- 主な介護者については、「子」が49.8%で最も多く、「配偶者」(34.3%)、「子の配偶者」(5.2%)がつづいており、前回調査と大きな差異はありません。



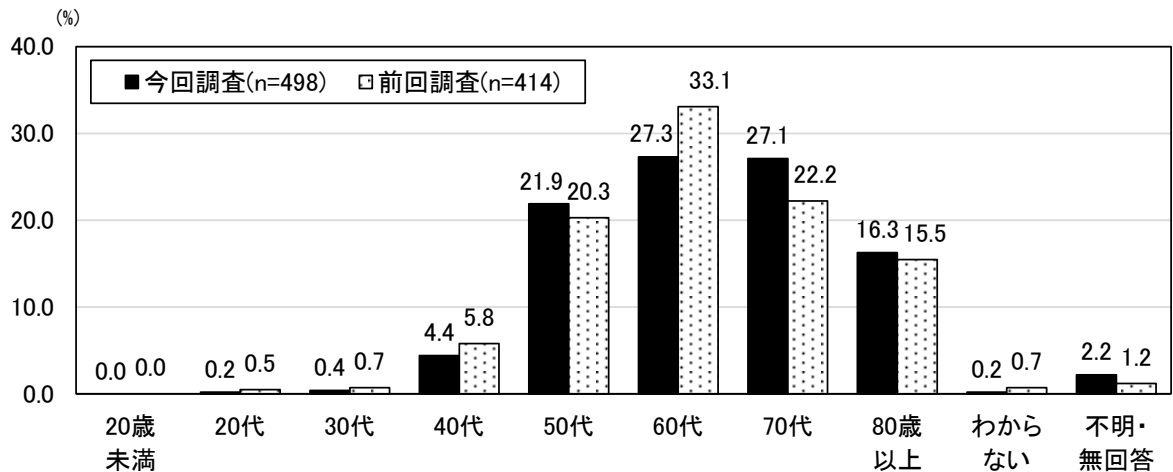
##### ②主な介護者の性別【在宅介護実態調査：問4】

- 主な介護者の性別については、「女性」が67.9%、「男性」が30.3%となっており、前回調査と比べて男性が増加し、女性が減少しています。



##### ③主な介護者の年齢【在宅介護実態調査：問5】

- 主な介護者の年齢については、「60代」が27.9%で最も多く、「70代」(27.1%)、「50代」(21.9%)がつづいています。また、70代は前回調査(22.2%)から増加しており、総じて介護者の年齢は高齢化していることがうかがえます。

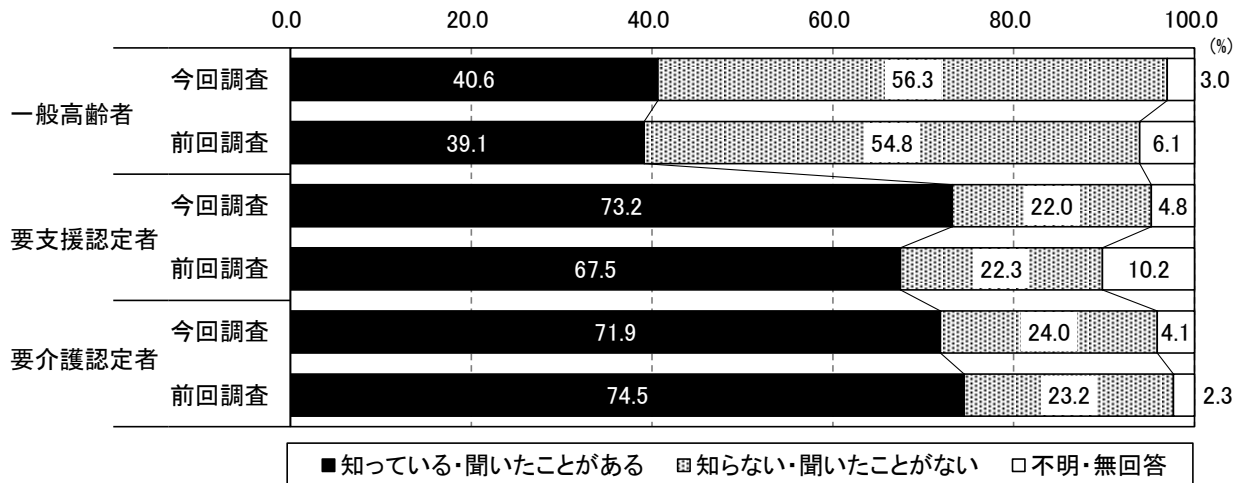


## 7) 地域での生活を支える体制について

(1) 高齢者あんしん窓口（地域包括支援センター）の認知状況【ニーズ調査：問9-5、在宅介護実態調査：問13】

### 一般高齢者／要支援認定者／要介護認定者

- 西宮市高齢者あんしん窓口（地域包括支援センター）について「知っている・聞いたことがある」人は、一般高齢者で40.6%、要支援認定者で73.2%、要介護認定者で71.9%となっており、いずれも前回調査と統計的有意差はありません。



(2) 高齢者あんしん窓口（地域包括支援センター）の機能・役割の認知状況【ニーズ調査：問9-5-1、在宅介護実態調査：問13-1】

一般高齢者／要支援認定者／要介護認定者

- 高齢者あんしん窓口を知っている人について、知っている高齢者あんしん窓口の役割・機能をみると、一般高齢者では、「高齢者の総合的な相談を行っている」が76.5%で最も多く、「介護予防の支援や相談を行っている」(53.1%)、「認知症に関する相談を行っている」(34.7%)がつづいています。
- 要支援認定者では、「高齢者の総合的な相談を行っている」が71.7%で最も多く、「介護予防の支援や相談を行っている」(60.8%)、「認知症に関する相談を行っている」(22.7%)がつづいています。
- 要介護認定者では、「高齢者の総合的な相談を行っている」が76.8%で最も多く、「介護予防の支援や相談を行っている」(54.3%)、「認知症に関する相談を行っている」(31.3%)がつづいています。
- 高齢者あんしん窓口の機能・役割の認知率について、一般高齢者や要支援認定者、要介護認定者のいずれでも「高齢者の総合的な相談を行っている」は7～8割、「介護予防の支援や相談を行っている」5～6割程度を占めていますが、「認知症に関する相談を行っている」は2～3割程度、「地域のネットワークを活用し、高齢者の実態把握を行っている」は1割台半ばとなっており、それ以外の機能・役割の認知率は1割に達していません。

また、一般高齢者や要支援認定者、要介護認定者で、すべての機能・役割について、前回調査と統計的有意差はありません。

	一般高齢者		要支援認定者		要介護認定者	
	今回調査 (n=1,717)	前回調査 (n=1,209)	今回調査 (n=1,379)	前回調査 (n=2,099)	今回調査 (n=435)	前回調査 (n=386)
高齢者の総合的な相談を行っている	76.5	73.7	71.7	70.8	76.8	79.5
介護予防の支援や相談を行っている	53.1	52.7	60.8	63.9	54.3	54.4
認知症に関する相談を行っている	34.7	34.9	22.7	24.3	31.3	33.7
地域のネットワークを活用し、高齢者の実態把握を行っている	14.1	13.2	13.3	13.2	14.0	15.8
悪質な訪問販売などによる消費者被害の防止と対応に関する取組を行っている	9.1	8.8	6.1	8.7	8.0	7.8
成年後見制度の周知活動を行っている	8.4	8.5	5.1	4.5	5.7	5.7
高齢者虐待の早期発見や対応に関する取組を行っている	8.3	7.6	4.7	4.7	4.8	6.7
いずれもよく知らない	12.8	13.4	9.9	9.9	14.5	9.6
不明・無回答	2.7	2.0	4.4	3.4	1.6	2.8

## 8) 市が力を入れるべき施策について

### (1) 高齢社会に対応するために市が力を入れるべき施策【ニーズ調査：問10-6、在宅介護実態調査：問18】

#### 一般高齢者

- 高齢社会に対応するため西宮市が力を入れるべき施策については、「介護予防（要支援・要介護状態になることを予防する）の推進」が42.2%で最も多く、「高齢者あんしん窓口（地域包括支援センター）を中心とした相談体制の充実」（38.6%）、「施設やサービス付き高齢者向け住宅など住まいの整備」（37.9%）、「在宅医療・介護を一体的に提供できる体制づくり」（37.3%）がつづいています。
- 「高齢者あんしん窓口（地域包括支援センター）を中心とした相談体制の充実」（38.6%）は、前回調査（32.4%）から増加していますが、それ以外では前回調査と統計的有意差はありません。

	今回調査(n=4,224)	前回調査(n=3,809)
介護予防(要支援・要介護状態になることを予防する)の推進	42.2	41.7
高齢者あんしん窓口を中心とした相談体制の充実	38.6	32.4
施設やサービス付き高齢者向け住宅など住まいの整備	37.9	36.0
在宅医療・介護を一体的に提供できる体制づくり	37.3	34.6
介護保険サービスの質の向上	28.0	27.7
認知症支援の充実	24.0	21.6
ケアマネジャーなどの介護に関わる人の資質向上	20.3	19.0
近所や地域の支えあいや見守りの充実	13.6	13.9
地域住民が気軽に集い活動できる場づくり	12.0	13.0
高齢者虐待や成年後見制度利用などの権利擁護に関する相談支援体制の充実	4.7	4.7
その他	2.5	2.6
不明・無回答	6.3	9.1

### 要支援認定者

- 高齢社会に対応するため西宮市が力を入れるべき施策については、「介護予防（要支援・要介護状態になることを予防する）の推進」が40.8%で最も多く、「高齢者あんしん窓口（地域包括支援センター）を中心とした相談体制の充実」（39.3%）、「在宅医療・介護を一体的に提供できる体制づくり」（31.6%）、「施設やサービス付き高齢者向け住宅など住まいの整備」（30.9%）がつづいています。
- 「地域住民が気軽に参加できる場づくり」（12.9%）は前回調査（10.7%）から増加していますが、それ以外では前回調査と統計的有意差はありません。

	今回調査(n=1,884)	前回調査(n=3,111)
介護予防(要支援・要介護状態になることを予防する)の推進	40.8	41.8
高齢者あんしん窓口を中心とした相談体制の充実	39.3	36.1
在宅医療・介護を一体的に提供できる体制づくり	31.6	29.1
施設やサービス付き高齢者向け住宅など住まいの整備	30.9	33.4
介護保険サービスの質の向上	26.1	26.6
ケアマネジャーなどの介護に関わる人の資質向上	23.4	21.8
認知症支援の充実	18.2	18.2
近所や地域の支えあいや見守りの充実	15.5	15.5
地域住民が気軽に集い活動できる場づくり	12.9	10.7
高齢者虐待や成年後見制度利用などの権利擁護に関する相談支援体制の充実	4.4	4.1
その他	3.0	3.3
不明・無回答	9.2	11.3

### 要介護認定者

- 高齢社会に対応するため西宮市が力を入れるべき施策については、「認知症支援の充実」が37.5%で最も多く、「施設やサービス付き高齢者向け住宅など住まいの整備」（34.2%）、「在宅医療・介護を一体的に提供できる体制づくり」（33.9%）、「介護保険サービスの質の向上」（32.9%）がつづいています。
- 「在宅医療・介護を一体的に提供できる体制づくり」や「ケアマネジャーなどの介護に関わる人の資質向上」は前回調査から増加していますが、それ以外では前回調査と統計的有意差はありません。
- 「認知症支援の充実」は、一般高齢者と要支援認定者を大きく上回っています。

	今回調査(n=605)	前回調査(n=518)
認知症支援の充実	37.5	36.3
施設やサービス付き高齢者向け住宅など住まいの整備	34.2	36.5
在宅医療・介護を一体的に提供できる体制づくり	33.9	29.7
介護保険サービスの質の向上	32.9	34.4
介護予防(要支援・要介護状態になることを予防する)の推進	29.6	31.3
ケアマネジャーなどの介護に関わる人の資質向上	29.6	23.6
高齢者あんしん窓口を中心とした相談体制の充実	27.3	25.1
近所や地域の支えあいや見守りの充実	17.7	19.3
地域住民が気軽に集い活動できる場づくり	10.6	8.9
高齢者虐待や成年後見制度利用などの権利擁護に関する相談支援体制の充実	5.3	5.0
その他	4.0	3.3
不明・無回答	5.0	4.8

## 9) 第8期介護保険事業計画 成果指標の状況

成果指標				令和2年	令和5年		統計的 有意差	評価 ※	該当設問
					目標	実績			
基本目標1	1) 高齢者の身体機能の維持・向上	①運動器機能リスク高齢者の割合	一般	12.5%	↘	11.6%	変化なし	B	リスク分析
		②転倒リスク高齢者の割合	一般	31.6%	↘	29.3%	変化なし	B	リスク分析
		③認知機能の低下リスク高齢者の割合	一般	46.0%	↘	45.1%	変化なし	B	リスク分析
	2) 高齢者の社会参加・活動的な生活習慣の実現	①閉じこもりリスク高齢者の割合	一般	12.7%	↘	14.0%	変化なし	B	リスク分析
		②地域での会・グループ活動に参加している高齢者の割合	一般	67.6%	↗	68.2%	変化なし	B	ニーズ Q5-1
			要支援	47.0%	↗	43.8%	減少	C	
		③つどい場やサロンなど気軽に集える場に月1回以上参加している高齢者の割合	一般	4.8%	↗	2.8%	減少	C	ニーズ Q5-1-(8)A
			要支援	6.7%	↗	5.2%	変化なし	B	
		④生きがいがある人の割合	一般	62.8%	↗	59.4%	減少	C	ニーズ Q4-1(12)
			要支援	46.6%	↗	46.2%	変化なし	B	
基本目標2	1) 支え合い、助け合える地域の実現	①家族や友人・知人以外に相談できる人がいる人の割合	一般	52.1%	↗	46.5%	減少	C	ニーズ Q6-2
			要支援	74.6%	↗	73.2%	変化なし	B	
		②愚痴を聞いてくれる人・聞いてあげる人・看病をしてくれる人・してあげる人のいずれもない人の割合	一般	1.2%	↘	1.7%	変化なし	B	ニーズ Q6-1-(1)~(4)
			要支援	2.0%	↘	2.7%	変化なし	B	
		③日常的にご自身のことを気にかけてくれる人がいる、仕組みがある人の割合	一般	91.0%	↗	90.3%	変化なし	B	ニーズ Q6-6
			要支援	89.4%	↗	87.0%	変化なし	B	
	2) 介護者の負担軽減	①在宅の継続に向けて不安を感じる主な介護者の割合		89.4%	↘	90.6%	変化なし	B	在宅 Q23

※A:改善、B:変化なし、C:悪化



成果指標				令和2年	令和5年		統計的 有意差	評価 ※	該当設問	
					目標	実績				
基本目標3	1)在宅医療・介護に関する 市民理解の醸成	①在宅医療・介護について家族等と話し合っ ている人の割合	一般	28.7%	↗	26.4%	変化なし	B	ニーズ Q10-4	
			要支援	36.2%	↗	33.4%	変化なし	B		
	2)在宅医療・介護の一体的 なサービス提供	①在宅医療について希望し、実現可能だと思 う人の割合	一般	10.6%	↗	13.7%	増加	A	ニーズ Q10-5	
			要支援	11.8%	↗	12.7%	変化なし	B		
			要介護	27.1%	↗	32.2%	増加	A	在宅 Q12-1	
基本目標6	1)認知症の人とその家族を 支える体制の実現	①認知症状への対応に不安を感じる主な介護者の割合		42.0%	↘	39.4%	変化なし	B	在宅 Q23	
		②家族や友人・知人以外に相談できる人がいる 認知症の人または家族(当事者)の割合	一般	57.9%	↗	58.6%	変化なし	B	ニーズ Q6-2	
			要支援	76.4%	↗	71.2%	減少	C	ニーズ Q8-4	
		③西宮市は認知症になっても安心して暮らせる まちと思う人の割合	一般	14.4%	↗	14.2%	変化なし	B	ニーズ Q8-6	
			要支援	21.9%	↗	18.5%	減少	C		
			要介護	26.2%	↗	20.2%	減少	C	在宅 Q17	
基本目標7	1)地域の相談支援体制の 構築	①高齢者あんしん窓口を知っている人の割合		一般	39.1%	↗	40.6%	変化なし	B	ニーズ Q9-5
				要支援	67.5%	↗	73.2%	変化なし	B	
				要介護	74.5%	↗	71.9%	変化なし	B	在宅 Q13
		②高齢者あんしん窓口で高齢者虐待の相談が できることを知っている人の割合		一般	7.6%	↗	8.3%	変化なし	B	ニーズ Q9-5-1
				要支援	4.5%	↗	5.1%	変化なし	B	
				要介護	7.8%	↗	8.0%	変化なし	B	在宅 Q13-1
		③家族や友人・知人以外に相談できる人がいる 人の割合《再掲》		一般	52.1%	↗	46.5%	減少	C	ニーズ Q6-2
				要支援	74.6%	↗	73.2%	変化なし	B	
		2)支え合い、助け合える地 域の実現	①地域での会・グループ活動に参加している高 齢者の割合《再掲》		一般	67.6%	↗	68.2%	変化なし	B
	要支援				47.0%	↗	43.8%	減少	C	

※A:改善、B:変化なし、C:悪化